

こんなまちにしたい…

その夢をかたちにしませんか！

社協ワーカーのための  
小地域まちづくりプラン策定の手引き

社協による地域福祉推進研究会

『小地域福祉活動推進分科会』



社会福祉法人 福井県社会福祉協議会



平成 24～25 年度「社協による地域福祉推進研究会」

小地域福祉活動推進分科会報告

『社協ワーカーのための

小地域まちづくりプラン策定の手引き』

発行 平成 26 年 3 月

発行者 社会福祉法人 福井県社会福祉協議会

〒910-8516 福井市光陽 2-3-22

TEL0776-24-4987／FAX0776-24-0041

## 目 次

Chapter I いま、なぜ地域福祉が重要なのでしょうか	1
1. いま、身近な地域の中で起こっていること	1
2. 住民ですすめる福祉まちづくり	3
3. 身近な「地域」ってどの範囲をいうのか	5
4. なぜ、小地域福祉活動が必要なのか	5
5. 小地域福祉活動をすすめる“まちづくりプラン”とその効果	6
6. 地区社協がないところはどうするのか	6
7. プランづくりを成功させるツボ	7
Chapter II まちづくりプランをつくる方法を教えます	8
1. 策定委員会を設置する	9
2. 現状分析・問題把握をする	9
サンプル 基礎データ表	10
サンプル ご近助力チェックシート	11
3. 課題を整理する	19
4. プランづくりをする	20
サンプル 課題カード整理	22
サンプル 課題整理表	25
サンプル まちづくりプラン	27
Chapter III 活動のすすめ方を教えます	29
1. 活動の広報・啓発をする	29
2. 学習会や研修会を開催する	29
3. 活動の担い手づくりをする	29
4. 関係機関・団体と連携・協働をする	29
5. 活動のあれこれ	30

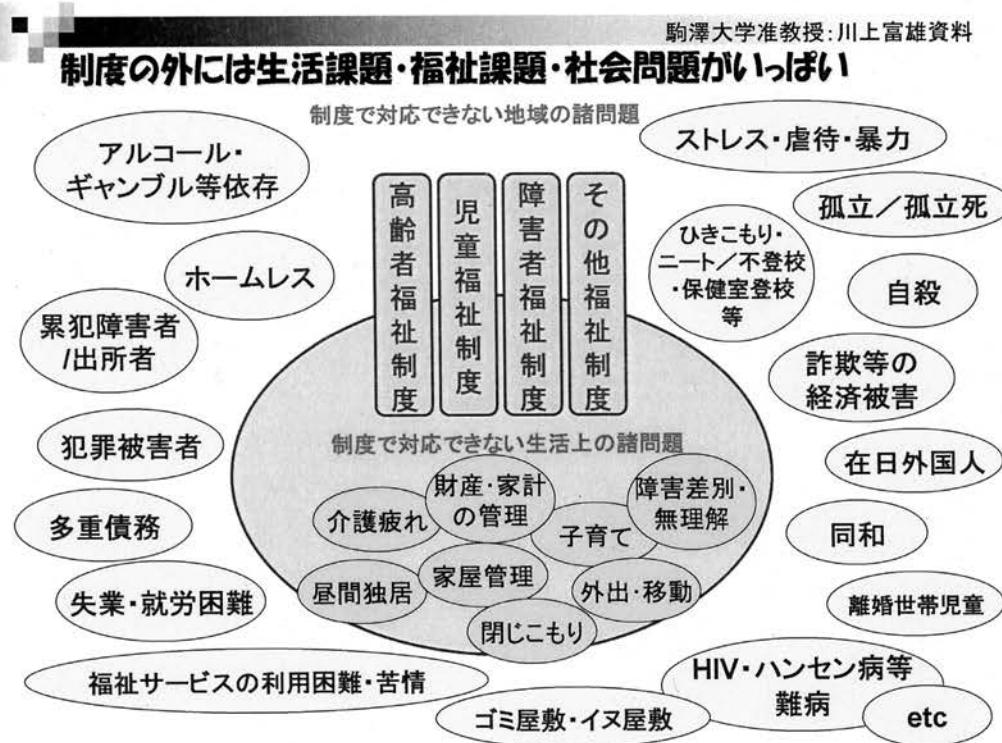
<b>ChapterIV 活動の点検・評価をしましょう</b>	<b>31</b>
1. 活動を点検・評価する人は	31
2. 活動の点検・評価の時期は	31
3. 評価の方法と評価の視点は	31
<b>サンプル まちづくりプラン活動評価表</b>	<b>33</b>
<b>様式集</b>	<b>35</b>
<b>様式 基礎データ表</b>	<b>36</b>
<b>様式 ご近助力チェックシート</b>	<b>37</b>
<b>様式 課題整理表</b>	<b>45</b>
<b>様式 まちづくりプラン</b>	<b>47</b>
<b>様式 まちづくりプラン活動評価表</b>	<b>49</b>
<b>ツールBOX</b>	<b>51</b>
ブレーン・ストーミング	52
KJ法(課題整理表)	53
旗揚げアンケート	54
KJ法とブレーン・ストーミングを使ったワークショップのテーマサンプル	55
広報誌のつくり方	56
<b>メンバー、スーパーバイザーからのコメント</b>	<b>60</b>
<b>小地域福祉活動推進分科会メンバー名簿</b>	<b>62</b>

# Chapter I いま、なぜ地域福祉が重要なのでしょうか

## 1. いま、身近な地域の中で起こっていること

いま、私たちが暮らしている身近な地域は、様々な社会・経済状況の変化により、大きく様変わりをしてきています。かつては、「おたがいさま」、「おかげさま」といった地域の相互扶助により人々の暮らしは支えられてきましたが、いまでは、家族機能が低下し、人間関係も薄れ、地域との結びつきが弱くなっています。

こうした中、地域社会に代わって、高齢者福祉制度、障害者福祉制度、児童福祉制度等の社会福祉制度が計画的に整備され、公的なサービスが充実されてはきましたが、例えば、一人暮らし高齢者や障害者等のゴミ出し、電球の取替えといったちょっとしたことの手助けに困る人の問題、引きこもりから孤立死に至る単身男性、消費者被害にあっても自覚がない認知症の一人暮らしの高齢者の問題、さらには高齢者、児童、障害者虐待等、地域の中では公的なサービスでは対応できない多様な生活課題や福祉課題、社会問題が起きています。



次の事例は、県内で実際にあったものです。

事 例

「孤立しがちな一人暮らし高齢者を地域で支えた事例」

一人暮らし高齢者で78歳の男性Nさん。親族との付き合いがなく、身寄りもありません。また、路地裏の老朽化した家に住み、近隣との仲が悪く交流もないため、地域の中で孤立しがちになっていました。区長、民生委員、福祉推進員による「住民の支え合い福祉マップづくり」を通して気がかりな人として浮かびあがり、その後、福祉推進員が安否確認や見守り活動を行うこととなりました。区長さんからは、「こうした一人暮らし高齢者ことで何か気づいたことがあれば連絡してほしい。」との意見が出され、区長、民生委員、福祉推進員で相談して、民生委員が住民の支援をはじめとした様々な情報を記入し、お互いがその情報を共有できる「連絡カード」を作成することになりました。

こうして安否確認や見守り活動が続けられましたが、次第にNさんはA D L（日常生活動作）が低下に伴い立ち上がりができなくなり、在宅での生活が困難な状況になってきました。こうした中、地域住民から「Nさんは福祉サービスの利用を拒否しており、在宅での生活が心配です。」という声があがりました。そこで、社協、地域包括支援センター、介護支援専門員、訪問介護事業所主任ヘルパー、区長、民生委員、福祉推進員、近隣住民による検討会議が開かれ、今後の支援について協議が行われました。協議の結果、訪問介護を週に3回、福祉推進員は週2回のゴミ出し、区長・民生委員は安否確認と見守り、知人はおかげの差し入れと役割分担をし、支援が開始されました。このケースを通じて区長さんから「Nさんに限らず一人暮らし高齢者への住民のさりげない見守りが必要。」という声があがり、町内会の広報紙に協力を要請する記事も掲載することになりました。

その後、病気入院があり、地域包括支援センターでは入所できる施設の紹介を行いましたがこれも拒否したため、退院後の在宅生活の支援についても協議が行われました。そんな矢先、Nさんの病状が悪化、Nさんから民生委員さんに「在宅で最期を迎える。葬式は町内でお願いしたい。」という意向が伝えられ、町内の関係者で協力してNさんの最期を見取ることになりました。司法書士を通じて公正証書遺言が作成され、Nさんの葬儀は、遺言どおり、区長さんが喪主となり町内関係者の協力で執り行われました。

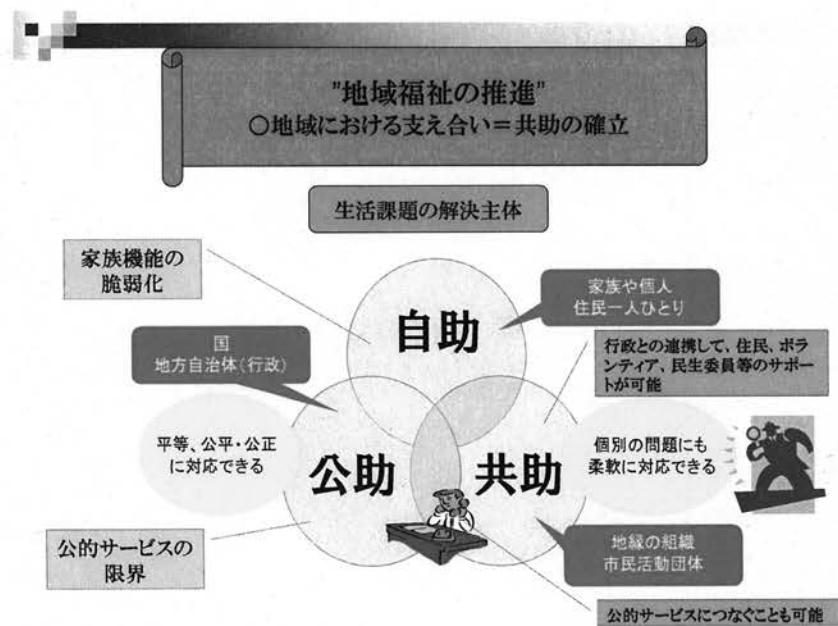
読んでみて、きっと気づかれたと思います。特に、このような地域社会から孤立しがちな人たちの課題は、いまやどこの地域で起きてもおかしくない課題なのです。

この事例からは、その地域社会から孤立しがちな高齢者を区長、民生委員、福祉推進員、近隣住民が協力をして地域全体で日常生活を支え合っていること、また、必要に応じて、社協等の専門職と連携し公的なサービスの活用も図っていることなど、地域で支え合うを感じることができます。

## 2. 住民ですすめる福祉でまちづくり

先の事例から分るように、地域での生活課題や福祉課題等を解決し、地域で暮らすみんなが生きがいのある快適な生活を送れるようにするために、改めて住民一人ひとりが、いま住んでいる身近な地域において、このような課題に関心を持ち、助けを必要としている人たちの問題に目を向け、お互いが助け合い、支え合う（共助）力を再生していく地域福祉の推進がとても重要です。

特に東日本大震災をきっかけに、国民みんなが、困ったときにはお互いに助け合い、支え合う大切さを痛感したはずです。



社会福祉法という法律の中で、この「地域福祉の推進」が位置づけられています。かつては「福祉」というと、生活保護等の何らかの課題を抱えた特定の人を救済するものというイメージがあったかも知れません。しかし、現在の福祉の考え方は、「すべての人が人として尊ばれ、自分の意思で自立した生活がよりよく送れるようにすること」とな

っています。この考え方に基づき、ここには特定の人たちだけでなく、すべての人が幸せに暮らしていける地域社会をめざしていく必要があるとしています。具体的には次のように書かれています。

〔社会福祉法第4条：地域福祉の推進〕

地域住民、社会福祉を目的とする事業を経営する者及び社会福祉に関する活動を行う者は、相互に協力し、福祉サービスを必要とする地域住民が地域社会を構成する一員として日常生活を営み、社会、経済、文化その他あらゆる分野の活動に参加する機会が与えられるように、地域福祉の推進に努めなければならない。

ここには、大切なポイントが3つあります。

- ① 「地域住民」とはそこに住む生活者である住民のことです。「社会福祉を目的とする事業を経営する者」とは、保育所や特別養護老人ホームや障害者施設等の社会福祉施設、ホームヘルパー等の福祉サービスを提供する事業所等のことです。「社会福祉に関する活動を行う者」とは、民生委員児童委員や福祉委員、ボランティア、NPO等のことです。地域福祉は、この三者が相互に協力してすすめるものです。
- ② 「地域社会を構成する一員として」とは、地域社会との関係が切れている人たちであっても排除しないということです。地域福祉は、こうした人たちの存在もしっかりと認識し、地域社会の構成員として包み支え合っていくことが重要です。こうした考え方を「ソーシャル・インクルージョン（社会的包摂）の理念」といいます。
- ③ 「社会、経済、文化その他あらゆる分野の活動に参加できる機会が与えられる」とは、誰もが自分の意思で生活を送る上で必要な活動に参加できるということです。地域福祉は、障害の有無にかかわらず、国籍も問わず、すべての人が社会の一員として認められ、自分の意志で活動に参加できるようにすることが重要です。こうした考え方を「ノーマライゼーションの理念」といいます。

簡単に言いますと、地域福祉とは、②と③の考え方を基本に、市町村の福祉、自分のまちの福祉をみんなで一緒につくっていく取り組みです。

地域福祉の主人公は、住民です。即ち、住民一人ひとりの活動が、いま必要とされる地域福祉の推進につながっていくのです。

### 3. 身近な「地域」ってどの範囲をいうのか

さて、身近な「地域」といっても、人によっては「隣近所」であったり、「自治会・町内会」であったりと、イメージが異なると思います。ここで言う「地域」とは、住民がふだんの暮らしで行動する小地域の範囲をいいます。具体的には、日常生活を送る上で必要な学校、保育所、公園、集会所、公民館等の施設や、民生委員児童委員、福祉委員、子ども会、老人会、婦人会、消防団等の地域の各種関係者・団体が充足されている「小学校区」または「公民館区」が挙げられます。福祉活動は、この「小学校区」または「公民館区」の小地域を基本としながら、地域の状況に合わせて進めるとよいでしょう。

現在、県内の7市2町社協では、すでに小地域単位に地区社協等が設置されており、7市での福祉活動も概ねこの範囲で行われています。また、2つの町社協では、集落単位に区長、民生委員児童委員、福祉委員を中心メンバーとした福祉委員会を設置し、集落を福祉活動の範囲としています。

### 4. なぜ、小地域福祉活動が必要なのか

小地域福祉活動をすすめると、次のような効果をもたらします。

#### 【効果1】 小地域福祉活動は福祉でまちづくりをする活動です。

すべての人が幸せに暮らしていける地域社会をめざし、そこに住むより多くの人がその活動に参加することで、身近な地域の福祉に対して関心や理解が深まります。

#### 【効果2】 一人ではできないことも可能になります。

何かをしようと思っても一人では何もできません。でも、地域に住むみんなが取り組めば何でも可能になります。

#### 【効果3】 「地域の福祉力」が蓄えられます。

小地域福祉活動は、すべての人が幸せに暮らしていける地域社会をめざす「実践の場」であり、「学びの場」です。その実践の積み重ねによって「地域の福祉力」が蓄えられていきます。

## 5. 小地域福祉活動をすすめる“まちづくりプラン”とその効果

こうした身近な地域での小地域福祉活動をすすめる道具（ツール）として必要なのが“まちづくりプラン”です。まちづくりプランは、小地域福祉活動を推進する組織である地区社協等が、住民の福祉ニーズや日ごろの活動点検から、「3年後までに私たちのまちをこんなまちにしたい」、そして「そのためにこんな活動がしたい」というみんなの想いや夢を目標に掲げ、みんなの共通理解のもとで、計画的に活動を実践していくものです。

まちづくりプランをつくるにあたっては、次のような意義があります。

- ① 地域の中での生活課題や福祉課題が理解され、活動目標が明確になる。
- ② 話し合いを重ねることによって、住民の理解や協力が得られる。
- ③ まちづくりプランづくりは、地域の多様な課題について学び、解決に向けて取り組む住民への福祉教育でもあり、地域福祉人材の育成にもつながる。
- ④ 計画化によって、課題解決に向けた活動が継続的かつ組織的な展開につながる。
- ⑤ 必要に応じて、行政への施策提言にもつながる。

## 6. 地区社協がないところはどうするのか

地域福祉活動は、自ずと生活課題等が住民に見える小さな圏域で行われることになります。そのため、まず、市町の状況に合わせた、そのような圏域設定が必要となります。圏域設定が決まったら、次は策定を行う方法や策定後の活動のすすめ方等について協議する場が必要です。例えば、住民座談会等の場を活用し、広く住民にまちづくりプランの重要性を理解してもらい、まちづくりプランの策定に関わるメンバーの選定や実際に活動をすすめる実行グループづくりなどについて協議しましょう。

その他の方法としては、近年、市町の自治振興施策として「まちづくり協議会」を設置しているところがいくつかあります。もし可能であれば、地域の生活課題等の解決に向けて協議する場として、まちづくり協議会の中に「福祉部会」等を設置することを働きかけることも方法の一つになります。

## 7. プランづくりを成功させるツボ

「まちづくりのための計画をつくりましょう。」といつても、まず住民は負担感をもって躊躇してしまうでしょう。基本は、地域の生活課題、福祉課題を他人事ではなく自分自身の問題として考えることができるかどうかです。そうするためには、ちょっとした工夫が必要です。

### 【ツボその1：まずは交流の機会をつくる】

参加する人たち同士が交流する機会がある、初めて何かが生まれます。最初から「まちづくりのための計画づくりのために住民座談会を開催します」というのは無理があります。例えば、バーベキュー大会をして交流し、そのうちの30分だけ座談会をするというように、最初は誰もが参加しやすいよう既存の行事に福祉のふりかけを少しかけてあげる工夫も大切です。人と関わることの大切さを知るとともに、仲良くなり楽しく事をすすめる成功の鍵がここにあります。

### 【ツボその2：地域を知り、目を向ける】

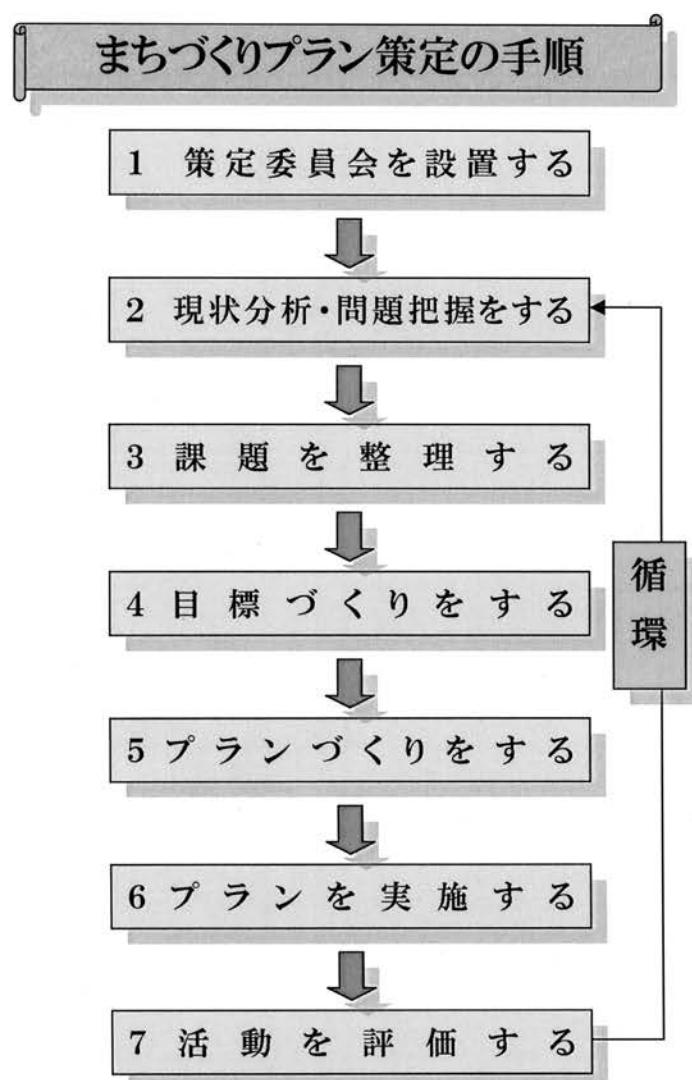
自分たちのまちづくりをすすめるためには、現実に地域の中で起こっている生活課題、福祉課題を他人事ではなく自分自身の問題として考えることが重要です。日本で起こっていることを知ることも大切ですが、まちづくりは、身近な地域での高齢者や障がい者等生活の様子や地域で起こっていることに関心を持つことから始まります。そんなところに目を向けると素材はたくさんあります。

### 【ツボその3：「ふりかえり」と「わかちあい」を忘れずに】

一人ひとりが感じたこと、考えたことは、自分の中だけに留めるのではなく、そのことをみんなで話し合い共有することでさらに理解や協力が得られます。自分自身を「ふりかえり」、一人の気づきをみんなで分かち合うことが社協のすすめる福祉教育において欠かせない「場」になります。

## Chapter II まちづくりプランをつくる方法を教えます

まちづくりプランをつくる手順は次の図のようになります。ここでは、まちづくりプランが楽しく、かつ分かりやすくつくれるよう、1~5までの具体的な作業方法を順に説明します。



《まちづくりプランの構成内容イメージ》

プランの名称: おらが地区 HAPPYまちづくりプラン〔仮称〕

“目標” 「3年後までに私たちのまちをこんなまちにしたい」

“活動計画” 「そのためにこんな活動がしたい」

## 1. 策定委員会を設置する

まちづくりプランを策定する策定委員会を設置します。策定委員会には地区社協等の役員や、必要に応じて役員以外の団体・機関、ボランティア等の関係者に入っています。

また、策定委員会の準備や資料作成等を行う事務局の役割を担う人を決めておくことも必要です。

## 2. 現状分析・問題把握をする

現状分析や問題把握をする方法はいろいろありますが、ここでは、必ず取り組んでいただきたい2つの方法について説明します。※【方法その1】は10頁、【方法その2】は11～18頁の記入サンプルを参照

### 【方法その1】 地域の基礎データの収集と現状分析

市町全域と地区エリアの基礎データを、市町社協や役所等から提供してもらい「基礎データ表」を作成します。作成したら、そのデータを見て感じたことを話し合ってみましょう。

### 【方法その2】 自己点検と問題把握

「ご近助力チェックシート」を用いて、自分が住む地域の状況をチェックし、感じたことを話し合ってみましょう。

その他、こんな方法もあります。

- ① ふれあい・いきいきサロンや子育てサロン、あるいは食事サービス等の利用者やボランティアの声を聴いてみましょう。
- ② 住民の意識や生活実態に関するアンケート調査を行ってみましょう。
- ③ 障害者等の当事者やその家族との懇談会を開催してみましょう。
- ④ 民生委員児童委員や主任児童委員、福祉委員から地域の問題について聴いてみましょう。

## H地区 基礎データ表

(平成22年12月1日現在)

項目	地区内数	全市数	入手先	
人口総数	6,536人	94,633人	市	
15歳未満 (年少人口)	1,057人 16.2%	14,250人 15.1%	市	
15~64歳 (生産年齢人口)	4,023人 61.6%	59,451人 62.9%	市	
65歳以上 (高齢者人口) 〔高齢化率〕	1,456人 22.3%	20,932人 22.2%	市	
平均年齢	45.2歳	44.4歳	県HP	
世帯数	1,938世帯	29,612世帯	市	
65歳以上独居世帯	125世帯 6.5%	2,452世帯 8.3%	市	
65歳以上高齢者世帯	315世帯	4,691世帯	市	
自治会数	30自治会	443自治会	市	
児童数	215人	2,897人	市HP	
老人会会員数	450人	6,889人	国保事務局(社協)	
民生委員児童委員数	11人	181人	市	
主任児童委員数	1人	11人	市	
福祉委員数	38人	658人	社協	
ボランティア活動者数	個人 団体	人 団体	20人 88団体	社協
生活保護受給世帯数	(坂井町)4人	83世帯	市	
要介護認定者数 (要介護3、4、5)	87人	1,449人	市	
障害者手帳所持者数	118人	1,907人	市	
	身障手帳 (1、2級)	99人	1,495人	市
	療育手帳 (A1、2)	5人	165人	市
	精神保健福祉手帳 (1、2)	14人	247人	市
一人親家庭数	56世帯	747世帯	市	
	母子家庭数	56世帯	698世帯	市
	父子家庭数	0世帯	49世帯	市
外国人登録者数	72人	1,244人	市・県	
【地域の特徴・福祉課題】				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・旧村と新興住宅が混在していて、封建的な考え方と合理的な考え方との違いがあり、全体的にはまとまりにくい地区。</li> <li>・高齢化率10%の自治会もあれば30%以上の自治会もあり差が大きい。</li> <li>・他の地区に比べ福祉委員の定着が弱く、1年交代の自治会が多く、キーパーソンをみつけることが困難。</li> <li>・30の自治会があり、地区全体で統一的に取り組むことは難しい。自治会単位での細かい取り組みが必要。</li> </ul>				

※本表は、「地区データ表」の他、「地区アセスメントシート」など、いろいろな呼び名があります。

※本表では、要介護認定者数、障害者手帳所持者数を所属する市町村の災害時要援護者支援制度の対象者としていますが、地区によって事情が異なります。

「地域支え合い体制づくり人材育成事業」

ご近所に気づく、ご近所を築く  
～住みやすさをみんなの手で～

あなたの

きんじょりょく

「ご近助力」～ご近所での助け合いの力～  
チェックしてみませんか？



あなたがお住まいの地区名は、

A 地区

※このチェックシートは、「私たちの暮らしの居心地の良さや安心」につながっている住民一人ひとりの営みや人ととの関係性、場所等を10区分50項目にまとめたものです。

※このシートを使って、自己チェックすることで、ご近所とのつながり度や地域への愛着度、暮らしの安心感等を度数化して、分かりやすく振り返ることができ、その結果をみんなで話し合うことで「ご近所での助け合いの力～ご近助力～」を高めていくことを目的としています。

※なお、このチェックシートの中での「ご近所」とは、便宜上「集落や町内会など普段から徒歩で行ける範囲」と定義したいと思います。

※つきましては、個人のプライバシーには十分ご注意いただき、みんなで「ご近助力」チェックをしてみましょう！

このシートの内容に関するご意見・お問い合わせは、

社会福祉法人 福井県社会福祉協議会 福祉のまちづくり推進課 (TEL0776-24-4987) または、  
お住まいの市町社会福祉協議会 ( - - - ) まで

以下の①～⑤のそれぞれについて、右側の1～4のあてはまる番号に○をつけてください。

1. ご近所とのコミュニケーションについて	よくある	たまにある	あまりない	全くない
以下の①～⑤のそれぞれについて、右の1～4のいずれかに○をつけてください。				
① 近所の人と顔を合わせることがある	4	3	2	1
② 近所の人とあいさつを交わすことがある	4	3	2	1
③ 近所の人とおしゃべりや立ち話をすることがある	4	3	2	1
④ 近所の家同士で行き来することがある	4	3	2	1
⑤ 近所の人と電話やメールで連絡を取ることがある	4	3	2	1

あなたの「ご近所とのコミュニケーション」で気づいたことなどがあれば、書き留めておきましょう。

2. ご近所へのさりげない思いやりや親切について	あてはまる	どちらかというとあてはまる	どちらかといふ	あてはまらない	全くあてはまらない
以下の①～⑤のそれぞれについて、右の1～4のいずれかに○をつけてください。					
① 近所の人におすそわけをするほうだ	4	3	2	1	
② 近所の人が困っていれば手を貸すほうだ	4	3	2	1	
③ 近所の出来事や異変が気になるほうだ	4	3	2	1	
④ 近所の人が元気でいるかどうかが気になるほうだ	4	3	2	1	
⑤ 近所の人の様子（安否）をうかがいに行くほうだ	4	3	2	1	

あなたの「ご近所へのさりげない思いやりや親切」で気づいたことなどがあれば、書き留めておきましょう。

以下の①～⑤のそれぞれについて、右側の1～4のあてはまる番号に○をつけてください。

3. 地域の子どもへの関心について	あてはまる	どちらかというとあてはまる	どちらかといふ	あてはまらない	全くあてはまらない
① 近所の子どもの顔は分かる（どこの家の子か分かる）ほうだ	4	3	2	1	③
② 子どもの見守りや健全育成に关心があるほうだ	④	3	2	1	④
③ 子ども会やPTA活動には協力する（自分の子どもの有無に関わらず）ほうだ	4	3	2	1	③
④ 学校が行う行事や小中学生の課外授業等には協力するほうだ	4	3	2	1	③
⑤ いじめや非行、児童虐待等の問題に关心があるほうだ	④	3	2	1	④

あなたの「地域の子どもへの関心」で気づいたことなどがあれば、書き留めておきましょう。

自分も子どもがいるので、地域の子どもへの関心は高い。

4. プライバシーや尊厳に対する理解について	あてはまる	どちらかといふ	どちらかといふ	あてはまらない	全くあてはまらない
以下の①～⑤のそれぞれについて、右の1～4のいずれかに○をつけてください。	あてはまる	どちらかといふ	どちらかといふ	あてはまらない	全くあてはまらない
① 近所のプライバシーに触れる情報は他言しないように配慮しているほうだ	4	3	2	1	③
② 障がいや認知症に対する理解はあるほうだ	4	3	2	1	③
③ 政治や宗教の自由を認めているほうだ	4	3	2	1	③
④ 多様な考え方や生き方を尊重しているほうだ	4	3	2	1	③
⑤ 地域の中で孤立している人がいると気になるほうだ	4	3	2	1	③

あなたの「プライバシーや尊厳に対する理解」で気づいたことなどがあれば、書き留めておきましょう。

以下の①～⑤のそれぞれについて、右側の1～4のあてはまる番号に○をつけてください。

5. みんなと一緒に楽しめる活動や場所について	よくある	たまにある	あまりない	全くない
以下の①～⑤のそれぞれについて、右の1～4のいずれかに○をつけてください。				
① 公民館や集会場を利用・活用することがある	4	3	2	1
② 近所の多世代の人とふれあったり、交流することがある	4	3	2	1
③ 地区の運動会や祭り等の地域行事に参加することがある	4	3	2	1
④ 近所の人と普段から集まったり、出かけたりすることがある	4	3	2	1
⑤ 青年団や婦人会、老人クラブ等の地域活動との関わりがある	4	3	2	1

「みんなと一緒に楽しめる活動や場所」で気づいたなどがあれば、書き留めておきましょう。

6. 学びと生きがい活動について	あてはまる	どちらかというとあてはまる	どちらかといふとあてはまらない	全くあてはまらない
以下の①～⑤のそれぞれについて、右の1～4のいずれかに○をつけてください。				
① 趣味や生きがいなどの講座に興味があるほうだ	4	3	2	1
② 余暇活動（スポーツや趣味）を一緒に使う仲間がいるほうだ	4	3	2	1
③ 農作業や園芸、日曜大工等にやりがいを感じるほうだ	4	3	2	1
④ 自分の趣味や特技を近所で活かしてみたいと思うほうだ	4	3	2	1
⑤ ボランティア活動や市民活動等に興味があるほうだ	4	3	2	1

あなたの「学びと生きがい活動」で気づいたことなどがあれば、書き留めておきましょう。

以下の①～⑤のそれぞれについて、右側の1～4のあてはまる番号に○をつけてください。

7. 地域の歴史や文化等への関心について	あてはまる	どちらかというとあてはまる	どちらかといふとあてはまらない	全くあてはまらない
以下の①～⑤のそれぞれについて、右の1～4のいずれかに○をつけてください。				
① 身近な自然に親しみを感じるほうだ	4	3	2	1
② 地元の郷土料理や特産物を知っているほうだ	4	3	2	1
③ 身近な地域の名所旧跡を知っているほうだ	4	3	2	1
④ 身近な地域の成り立ちや伝統を知っているほうだ	4	3	2	1
⑤ 身近な地域の良さや特色を積極的にアピールするほうだ	4	3	2	1

あなたの「地域の歴史や文化等への関心」で気づいたことなどがあれば、書き留めておきましょう。

8. 地域のルールについて	あてはまる	どちらかといふとあてはまる	どちらかといふとあてはまらない	全くあてはまらない
以下の①～⑤のそれぞれについて、右の1～4のいずれかに○をつけてください。				
① 集落や町内の回覧物や配付物には目を通すほうだ	4	3	2	1
② ゴミ捨て等のルールはしっかり守るほうだ	4	3	2	1
③ 社会奉仕活動には積極的に参加するほうだ	4	3	2	1
④ 集落や町内会の会合には参加するほうだ	4	3	2	1
⑤ 頼まれたら集落や町内会での世話役（役回り）を担うほうだ	4	3	2	1

あなたの「地域のルール」で気づいたことなどがあれば、書き留めておきましょう。

義父母と同居しているため、集落や町内会の会合は義父母に任せっきりである。

以下の①～⑤のそれぞれについて、右側の1～4のあてはまる番号に○をつけてください。

9. 防犯や防災の意欲について	あてはまる	どちらかといふと あてはまる	どちらかといふと あてはまらない	全くあてはまらない
以下の①～⑤のそれぞれについて、右の1～4のいずれかに○をつけてください。				
① 防犯や防災に関する緊急情報（テレビやラジオ、携帯電話等）はチェックするほうだ	4	3	2	1
② 消防団や自主防災組織等の活動に協力しているほうだ	4	3	2	1
③ 避難所の場所や消火栓・防火水槽の場所を把握しているほうだ	4	3	2	1
④ 集落や町内会の防災訓練に参加しているほうだ	4	3	2	1
⑤ 防災・防犯マップなどの情報を把握しているほうだ	4	3	2	1

あなたの「防犯や防災の意欲」で気づいたことなどがあれば、書き留めておきましょう。

防災についての意識が低い。

10. 困りごと（不安）の相談と助け合いについて	あてはまる	どちらかといふと あてはまる	どちらかといふと あてはまらない	全くあてはまらない
以下の①～⑤のそれぞれについて、右の1～4のいずれかに○をつけてください。				
① 近所の人に自分の愚痴や不安を話すほうだ	4	3	2	1
② 近所の人にちょっとした手助けを頼めるほうだ	4	3	2	1
③ 近所の人から困りごとを相談されるほうだ	4	3	2	1
④ 民生委員や福祉委員（※）の役割を理解しているほうだ	4	3	2	1
⑤ 各種の相談窓口を積極的に利用するほうだ	4	3	2	1

※社会福祉協議会等の委嘱を受けた住民で、ご近所での気になる世帯への見守りやニーズの発見等を担う。市町によって、設置の有無や名称（「福祉推進員」、「福祉協力員」等）が異なる。

あなたの「困りごと（不安）の相談と助け合い」で気づいたことなどがあれば、書き留めておきましょう。

## あなたの『ご近助力』自己分析は？

**手順1**  
各項目の①～⑤で○をした数字を合計します。  
**0～5**…活動や関心が低い  
**6～10**…活動や関心がやや低い  
**11～15**…活動や関心がやや高い  
**16～20**…活動や関心が高い

1. ご近所とのコミュニケーションについて	17	
2. ご近所へのさりげない思いやりや親切について	13	
3. 地域の子どもへの関心について	17	
4. プライバシーや尊厳に対する理解について	15	
5. みんなが楽しめる活動や場所について	13	
6. 学びと生きがい活動について	14	
7. 地域の歴史や文化等への関心について	16	
8. 地域のルールについて	13	
9. 防犯や防災の意欲について	11	
10. 困りごと（不安）の相談と助け合いについて	12	
<b>手順2</b> 『ご近助力』レーダーチャートを作つてみよう。	合計	75

右の図標にも各項目の合計ポイントをそのまま転記しておかれます。

手順3	手順3 さらに以下のⅠ～Ⅲについて、指定する5項目の合計を出します。	合計した数が 0～25…低い 26～50…やや低い 51～75…やや高い 76～100…高い	Ⅲ「暮らしの安心度」 Ⅱ「身近な地域への愛着度」 Ⅰ「ご近所とのつながり度」
17			
13			
17			
15			
13			
14			
16			
13			
11			
12			
73	合計	75	64

## 手順2

『ご近助力』レーダーチャートを作って、みんなで共有してみましょう！

### 『ご近助力』レーダーチャート

1 ご近所とのコミュニケーションについて

10 困りごと(不安)の相談と助け合いについて

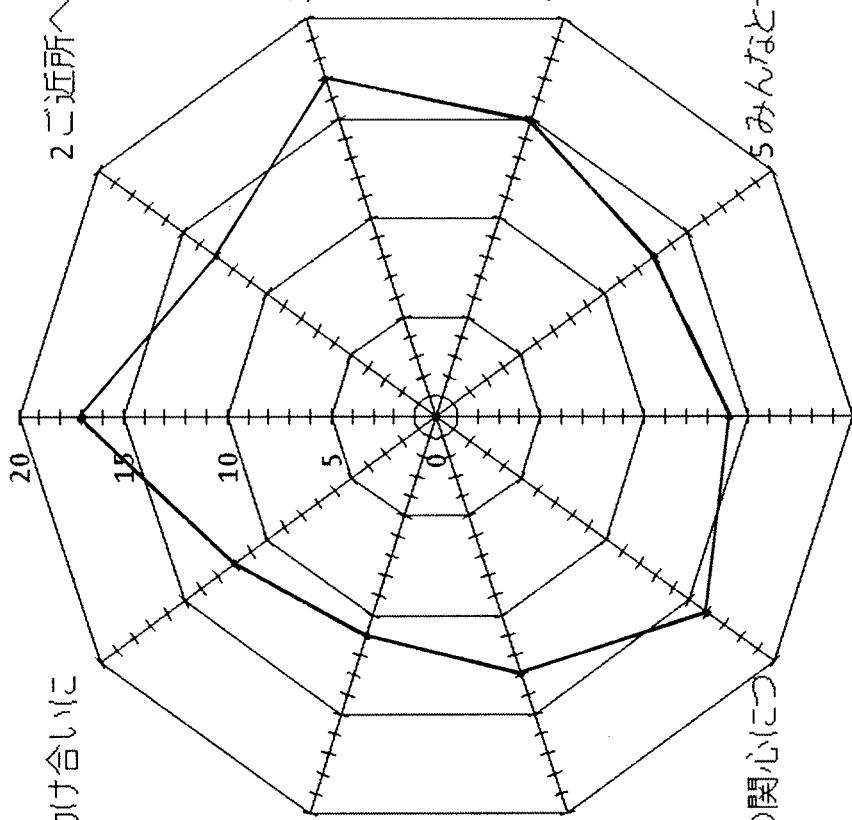
2 ご近所へのさりげない思いやりや親切について

3 地域の子どもへの関心について

4 プライバシーや尊厳に対する理解について

5 みんなと一緒に楽しめる活動や場所について

6 学びと生きがい活動について



### 3. 課題を整理する

2. の「現状分析・問題把握をする」の作業から出てきた課題を整理します。その方法としてよく使われるのがKJ法という方法です。ここでは、その方法を用いた手順を説明します。

※【Step1】は22～23頁、【Step2】～【Step6】は25～26頁の記入サンプルを参照

#### 【Step1】 KJ法による課題整理とタイトルづけ

現状分析や問題把握の作業から出された課題を課題カード(ポストイット)に書き出します。それらを分野ごとに似たものでグループ化します。さらに、グループ化した課題にその内容を示す端的なタイトルをつけます。【KJ法】



#### 【Step2】 「課題整理表」への「課題」および「具体的な意見」の転記

「課題整理表」にグループ化した課題のタイトルを「課題」欄に、タイトルごとにグループ化されている意見を「具体的な意見」欄に転記していきます。



#### 【Step3】 取り組む課題の決定

【Step2】の作業で記入された「課題」のすべてに取り組むことは困難です。「具体的な意見」を見て、緊急性の高く取り組みが必要なもの、あるいは実現しやすいものなど、自分の地域の状況に合わせて取り組む課題を決め、「取組の可否」欄に○印を記入します。



#### 【Step4】 解決策の書き出し

取り組む課題が決まったら、その課題の「具体的な意見」欄に記入した意見に対して考えられる解決策を検討し、できるだけ多く「解決策」欄に書き出します。



### 【Step5】 取り組む解決策の選択

「解決策」欄に記入した解決策一つ一つについて、「取組易さ」・「重要性」・「効果性」・「緊急性」・「効率性」の5つの選択の視点を用い、それぞれ3点満点で点数化し、その合計点を計算します。次に、合計点の高い解決策から「優先順位」欄に順位を記入します。同点の場合は、優先度の高い方から順位を記入します。順位が決まつたら、取り組みの可否について協議し、取り組む解決策を○で囲みます。



### 【Step6】 目標の設定

取り組む解決策が決まったら、最後にその解決策の目標の設定です。解決策に取り組むにあたって、3年後までに“どのような地域または状態を目指すのか”を分かりやすく表現し、「目標」欄に記入します。

## 4. プランづくりをする

さあ、ここからいよいよまちづくりプランの策定に入ります。ここまで来るとゴールが見え始めています。その手順を説明します。

※27~28頁の記入サンプルを参照

### 【Step1】 目標および実施する活動の転記

3. の「課題を整理する」の作業で作成した「課題整理表」の「目標」欄に記入した目標ごとに1枚ずつ「まちづくりプラン」シートを使用します。まず、「課題整理表」に記入した目標を「まちづくりプラン」シートの「目標」欄にそのまま転記します。併せて、その解決策を優先順位ごとに「実施する活動」欄に転記していきます。



### 【Step2】 個々の解決策の実施計画の協議と表への落とし込み

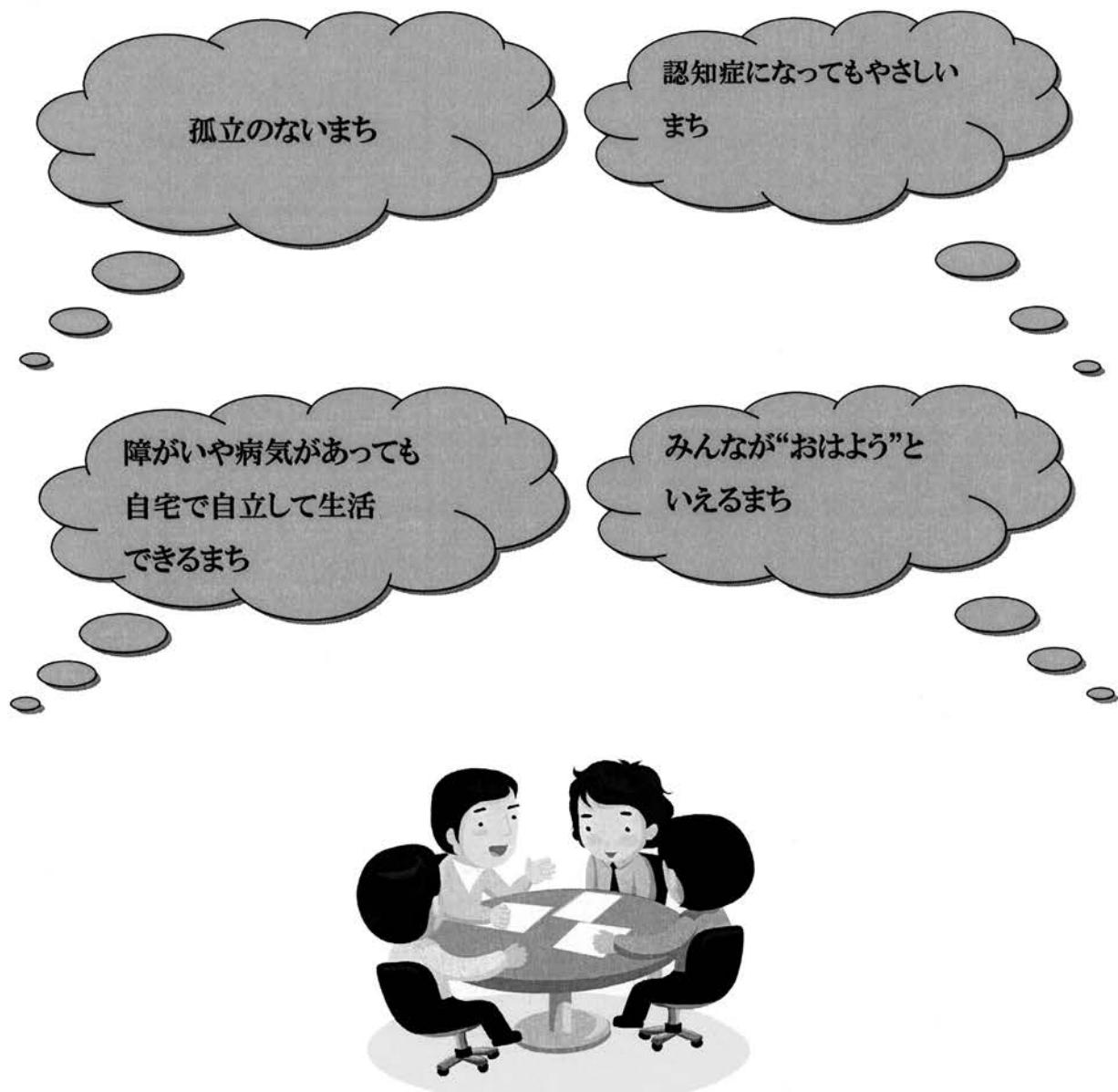
個々の解決策について、「いつ」、「だれが」、「どのように実施していくのか」を協議し表に落とし込んでいけば、まちづくりプランのできあがりです。



### 【Step3】 総合目標の設定

最後に、このまちづくりプランの総合目標を設定します。このまちづくりプランの実施することで“私たちのまちをこんなまちにしたい”という想いを分りやすいキャッチフレーズで表現した「総合目標」を設定し、「まちづくりプラン」シートの「総合目標」欄に記入します。また、総合目標は、まちづくりプランの表紙等にも記載しましょう。

#### 私たちが描くまちづくり



## 課題カード整理のサンプル

リーダーの養成と  
担い手不足

団体の世話役を担う  
人が少なくなっている

ボランティア団体の  
後継者が育たない

福祉の人材発掘や担  
い手確保が必要

情報の共有不足

支援が必要な人を把  
握することがむずか  
しい

民生委員児童委員、  
福祉委員、区長の情  
報交換の場が必要

住民同士の話しあい  
場が必要

つながりの希薄化、  
コミュニケーション不足

マンションに外国人  
が多く住んでいるが、  
が交流がない

地域との交流を嫌い、  
サロンにも参加せず、  
閉じこもりがちな人

町内会の行事に参加  
する人が少なくなっ  
てきた

あいさつする人が少  
ない

新興住宅や集合住宅  
では、隣近所の付き  
合いがない

アパートや一人暮ら  
しの人が増え、交流  
がない

地域の生活課題

ゴミ出しや電球交換  
等、ちょっとした手  
助けが必要な高齢者

小売店がなくなり、  
一人暮らしの高齢者は  
買い物が不自由で

一人暮らし高齢者の  
除雪が気がかり

**災害時への備え、災害時要援護者への対応**

高齢者が多く、災害時の対応が心配

災害時要援護者制度に登録している

災害訓練には、災害時要援護者の参加も必要

日ごろから緊急時や災害時に支え合える地域づくりが必要

平日でも気軽に立ち寄れるたまり場がほしい

井戸端会議ができる場がほしい

**子育て支援**

同世代の子どもがいないため、外遊びすらことが少なくなっている

田畠や家の手伝いをする子が減っている

乳幼児を抱えた母親が近所に複数いないため、交流の場が持たない

子どもが少なく子ども会の活動が低迷している

若い母親が気軽に集まれる場所がほしい

**介護者や認知症高齢者への対応**

高齢者を介護しているが、施設が順番待ちで困っている

徘徊する認知症高齢者の安全確保が第一

認知症高齢者の早期発見のためのネットワークづくりが必要

介護者の話し合う場がほしい

介護者の仲間づくりが必要

**権利擁護の対応**

知的障害者で金銭管理や財産管理ができず、日常生活が困難

成年後見制度の利用が必要なのに後見人がいない

越前市社会協働地域福祉活動計画（平成22年3月策定）資料  
「ワーカーショップでの意見」を一部修正し、引用



課題整理表（記入例と記入の際のポイント）

課題	具体的な意見	解決策	優先順位	選択の視点（3点満点で点数化）						目標																																																			
				取組易さ	重要性	効果性	緊急性	効率性	計																																																				
①リーダーの養成と 担い手不足	<ul style="list-style-type: none"> <li>●老人会・婦人会などの団体の世話役を担う人が少なくなっている。</li> <li>●ボランティア団体の後継者が育たない。</li> <li>●福祉の人材発掘や担い手確保が必要。</li> </ul>																																																												
②支援が必要な人の 情報の共有不足	<ul style="list-style-type: none"> <li>●認知症高齢者などの支援が必要な人を把握することがむずかしい。</li> <li>●民生委員児童委員、福祉委員、区長の情報交換の場がない。</li> <li>●住民同士の話し合いの場がない。</li> </ul>																																																												
【STEP2】課題整理でグループ化した タイトルを転記します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●家族間での話し合いが少なくなっている。</li> <li>●三世代同居が少なくなっている。</li> <li>●町内会の行事に参加する人が少なくなってきた。</li> <li>●あいさつする人が少ない。</li> <li>●新興住宅や集合住宅では、隣近所の付き合いがない。</li> <li>●アパートや一人暮らしの人が増え、交流がない。</li> <li>●マンションに外国人が多く住んでいるが、交流がない。</li> <li>●地域との交流を嫌い、サロンにも参加せず、閉じこもりがちな人がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象別、テーマ別等の工夫したサロンづくり</li> <li>・サロンに来れない人の見守り体制づくり</li> <li>・異世代、外国人等それぞれの立場でイベントや交流会・集い等の開催（登下校見守りボランティア等）</li> <li>・家庭や地域の中でのあいさつの推奨</li> <li>・地区カルテやアンケートを活用し、地域で何が問題なのかを住民間で共有し話し合いの場を持つ</li> </ul>	<table border="1"> <tr> <td>⑤</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>1</td><td>1</td><td>8</td><td>・なかまをふやしてご近所づくり</td></tr> <tr> <td>③</td><td>1</td><td>3</td><td>3</td><td>2</td><td>3</td><td>12</td><td></td></tr> <tr> <td>④</td><td>1</td><td>3</td><td>3</td><td>2</td><td>2</td><td>11</td><td></td></tr> <tr> <td>②</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>1</td><td>3</td><td>13</td><td></td></tr> <tr> <td>①</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>15</td><td></td></tr> </table>	⑤	1	2	3	1	1	8	・なかまをふやしてご近所づくり	③	1	3	3	2	3	12		④	1	3	3	2	2	11		②	3	3	3	1	3	13		①	3	3	3	3	3	15		<p>【STEP5】</p> <p>①解決策一つ一つについて、それぞれの選択の視点ごとに3点満点で点数化をし、合計点を記入します。</p> <p>②合計点の高い解決策（=取り組み）から順位付けをします。同点の場合は、優先度の高い方から順位付けをします。</p>																	
⑤	1	2	3	1	1	8	・なかまをふやしてご近所づくり																																																						
③	1	3	3	2	3	12																																																							
④	1	3	3	2	2	11																																																							
②	3	3	3	1	3	13																																																							
①	3	3	3	3	3	15																																																							
③つながりの希薄化、コミュニケーション不足										<p>【STEP6】取り組みが決まったら、その取り組みによって「どんなまちにしたいのか」、または「どんな活動がしたいのか」その想いを分かりやすいキヤッヂフレーズで表現し、目標を立てます。なお、目標は一つにまとめます。</p>																																																			
【STEP3】取り組む課題に○印を記入します。																																																													
取組の可否	○	【STEP2】タイトルごとにグループ化されている意見を見すべて転記します。																																																											
④地域の生活課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ゴミ出しや電球交換等、ちょっとした手助けが必要な高齢者がいる。</li> <li>●小売店がなくなり、一人暮らしの高齢者は買い物が不自由である。</li> <li>●一人暮らし高齢者の除雪が気がかり。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民みんなで支え合える小地域助け合いネットワークづくり</li> <li>・地区内での見守りフレンズ育み講座の開催</li> <li>・ちょボラの推奨</li> <li>・ちょっとしたボランティア講座の開催</li> <li>・買い物支援の検討（例：移動販売、乗り合いタクシー）</li> <li>・子どもや学生による除雪ボランティア</li> <li>・ボランティアでは頼みにくい人のための、ワンコイン（100円）で支援する有償ボランティアの仕組み</li> </ul>	<table border="1"> <tr> <td>②</td><td>1</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>1</td><td>11</td><td>・助け合えるご近所づくり</td></tr> <tr> <td>③</td><td>1</td><td>2</td><td>2</td><td>1</td><td>2</td><td>8</td><td></td></tr> <tr> <td>④</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>10</td><td></td></tr> <tr> <td>⑤</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>1</td><td>2</td><td>9</td><td></td></tr> <tr> <td>⑥</td><td>1</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>1</td><td>11</td><td></td></tr> <tr> <td>⑦</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>2</td><td>3</td><td>14</td><td></td></tr> <tr> <td>⑧</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>5</td><td></td></tr> </table>	②	1	3	3	3	1	11	・助け合えるご近所づくり	③	1	2	2	1	2	8		④	2	2	2	2	2	10		⑤	2	2	2	1	2	9		⑥	1	3	3	3	1	11		⑦	3	3	3	2	3	14		⑧	1	1	1	1	1	5		<p>【STEP5】</p> <p>①解決策一つ一つについて、それぞれの選択の視点ごとに3点満点で点数化をし、合計点を記入します。</p> <p>②合計点の高い解決策（=取り組み）から順位付けをします。同点の場合は、優先度の高い方から順位付けをします。</p>	
②	1	3	3	3	1	11	・助け合えるご近所づくり																																																						
③	1	2	2	1	2	8																																																							
④	2	2	2	2	2	10																																																							
⑤	2	2	2	1	2	9																																																							
⑥	1	3	3	3	1	11																																																							
⑦	3	3	3	2	3	14																																																							
⑧	1	1	1	1	1	5																																																							
取組の可否	○																																																												
⑤災害時への備え、災害時要援護者への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>●高齢者が多く、災害時の対応が心配。</li> <li>●災害時要援護者制度に登録していない人がいる。</li> <li>●災害訓練には、災害時要援護者の参加も必要。</li> <li>●日ごろから緊急時や災害時に支え合える地域づくりが必要。</li> </ul>																																																												
取組の可否																																																													

課題整理表（記入例と記入の際のポイント）

課題	具体的な意見	解決策	優先順位	選択の視点（3点満点で点数化）					目標
				取組易さ	重要性	効果性	緊急性	効率性	
⑥高齢者の健康づくり、生きがいづくり	●高齢者夫婦世帯や日中一人暮らし高齢者等、気がかりな人が増えている。 ●集いには男性の参加者が少ない。 ●サロンでは近所の人が誘い合うべき。 ●作ったものを持ち寄ったり、料理したりする機会がほしい。 ●平日でも気軽に立ち寄れるたまり場がほしい。 ●井戸端会議ができる場所がほしい。								
取組の可否									
⑦子育て支援	●同世代の子どもがいないため、外遊びすることが少なくなった。 ●田畠や家の手伝いをする子が減ってきている。 ●乳幼児を抱えた母親が近所に複数いないため、交流の場が持てない。 ●子どもが少なく子ども会の活動が低迷している。 ●若い母親が気軽に集まれる場所がほしい。								
取組の可否									
⑧介護者や認知症高齢者への対応	●高齢者を介護しているが、施設が順番待ちで困っている。 ●徘徊する認知症高齢者の安全確保が第一。 ●認知症高齢者の早期発見のためのネットワークづくりが必要。 ●介護者の話し合う場がほしい。 ●介護者の仲間づくりが必要。								
取組の可否									
⑨権利擁護の対応	●知的障害者で金銭管理や財産管理ができず、日常生活が困難な人がいる。 ●成年後見制度の利用が必要なのに後見人がいない。								
取組の可否									

## 光地区 まちづくりプラン【課題3】つながりの希薄化、コミュニケーション不足

総合目標	めさせ！困りごと『0（ゼロ）』のご近所づくり
------	------------------------

目標	なかまをふやしてご近所づくり		
実施する活動	1年目 (平成26年度)	2年目 (平成27年度)	3年目 (平成28年度)
地区カルテやアンケートを活用し、地域で何が問題なのかを住民間で共有し話し合いの場を持つ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区懇談会の開催 ※「地区カルテで自分の地域を再発見」意識づけ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民を対象にしたアンケートの実施</li> <li>・アンケート結果を基にした地域の問題の発掘（地区懇談会）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区懇談会の継続</li> <li>・地域でお互いを気にかけあう関係づくり</li> </ul>
家庭や地域の中でのあいさつの推奨	<p>制度設計の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつし隊の結成</li> <li>・あいさつの方法の啓発活動内容の決定</li> </ul>	あいさつし隊の活動	あいさつし隊の活動
サロンに来れない人の見守り体制づくり		<p>制度設計の構築</p> <p>（例）地区役員、ボランティア等での週1での訪問</p>	当番制での見守り活動
異世代・外国人などそれぞれの立場で、イベントや交流会・集いなどの開催（登下校見守りボランティア等）		<ul style="list-style-type: none"> <li>・老人クラブとのグランドゴルフや伝承遊びなどのレクレーション</li> <li>・異文化教室の開催（外国の料理・言語教室、外国人に日本の料理・文化教室）</li> <li>・登下校見守りボランティアの立ち上げ、広報誌などによる広報</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区的祭の企画</li> <li>・実行委員会の設立、予算などの検討</li> <li>・異国文化交流イベントの企画</li> <li>・実行委員の中心は外国の方（区の方も半分）</li> <li>・登下校見守りボランティア活動とその振り返り</li> </ul>
対象別、テーマ別等の工夫したサロンづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域のサロンやその他の集まり、趣味活動グループの把握および関係者との交流</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既存のグループ同士の交流や異世代の交流</li> <li>（例）サロンに保育所の園児を招く</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ化していない世代や地域の交流の場づくり</li> <li>・新興住宅地での新たなイベントの開催と定着化</li> </ul>

※記入例の作成にあたっては、AとBのグループ編成をし、グループで作業を分担したため、表現の仕方がそれぞれ異なっています。

## 光地区 まちづくりプラン【課題4】地域の生活課題

総合目標	めざせ！困りごと『0（ゼロ）』のご近所づくり
------	------------------------

目標	助け合えるご近所づくり		
	1年目 (平成26年度)	2年目 (平成27年度)	3年目 (平成28年度)
・子どもや学生による除雪ボランティア	・学校・大学等への呼びかけ ・除雪してほしい人の需要の把握	・ボランティア講座の開催	・マッチングによる活動
・住民みんなで支え合える小地域助け合いネットワークづくり	・福祉関係者への呼びかけ ・活動内容の検討と決定	・回覧板や呼びかけによる住民への周知	・定例会の実施→情報交換 ・活動の役割決め
・買い物支援の検討	・買い物支援してほしい人の調査（場所や人数の把握）	・業者・小売店などとの交渉 ・買い物ボランティアの養成	・マッチングによる活動
・ちょボラの推奨	・ちょボラの需要の調査・把握	・需要に合わせたちょボラ養成講座の開催	・マッチングによる活動
・地区内での見守りフレンズ育み講座の開催	・講座の開催	・人材発掘	・小地域助け合いネットワークづくりの参加・協力

※記入例の作成にあたっては、AとBのグループ編成をし、グループで作業を分担したため、表現の仕方がそれぞれ異なっています。

## Chapter III 活動のすすめ方を教えます

### 1. 活動の広報・啓発をする

活動をすすめる上で最も重要なことは、いかに住民に生活課題、福祉課題に関心を持ってもらい、住民自らが活動に参加したり、協力したりすることができるようになることです。まずは、広報紙やチラシ等でまちづくりプランの内容を紹介したものを全戸配付するなどして理解を深めてもらいましょう。広報紙は、活動を理解してもらうためにも定期的に発行しましょう。

また、公民館等の掲示板を活用して、活動の様子が分かる写真等も張り出すなどするのも効果的です。

### 2. 学習会や研修会を開催する

住民座談会や地域の各種団体等の会議を活用するなどして、まちづくりプランの推進について理解と協力を求めることが大切です。

また、地域の生活課題、福祉課題について認識を深めるためにも、学習会や研修会の開催も取り入れると、より効果的です。

### 3. 活動の担い手づくりをする

地区社協等の役員だけで活動をすすめるには、限界があります。平成 24 年度から始まった「地域支え合い体制づくり人材育成事業」を活用するなどして、活動への参加や協力をしてくれる人の発掘や養成をしましょう。

### 4. 関係機関・団体と連携・協働をする

地域には、ボランティアグループ、各種団体、公民館、学校、社会福祉施設といった多様な関係機関・団体があります。活動をすすめる際には、これらが持つ場や人材、専門機能の活用や協働も考えてみましょう。

## 5. 活動のあれこれ

「活動を通じて、より具体的な福祉課題が見えてくる」といわれます。活動メニューは、たくさんあります。これらを参考にともかく小さいことからでも活動をはじめましょう。

また、活動メニューはみんなが親しみをもって取り組めるようにネーミングすることも一つの工夫です。

### 【交流活動】

- 一声あいさつ運動 ○世代間交流会 ○社会福祉施設への訪問と交流会
- 盆踊りや運動会等への施設入所者の招待 ○子育てママとの懇談会

### 【福祉の意識を高める活動】

- 広報紙の発行 ○住民意識アンケート ○福祉講演会 ○福祉DVDの鑑賞会
- 介護講習会 ○ボランティア入門講座 ○車椅子体験講座 ○防災講座
- 福祉バザー ○民生委員児童委員や主任児童委員との懇談会

### 【助け合い活動】

- 見守り活動 ○家事援助サービス ○食事サービス ○外出支援サービス
- 買い物支援サービス ○地域リハビリ教室 ○介護相談 ○子育て相談
- 一人暮らし高齢者のつどい ○男の料理教室 ○ふれあい・いきいきサロン

### 【まちづくり活動】

- まちづくり点検活動 ○福祉マップづくり ○先進地視察 ○行政との懇談会



## ChapterIV 活動の点検・評価をしましょう

まちづくりプランは、つくれば終わりではありません。活動を点検・評価し、改善を図るなどして次の活動につなげていくことが重要です。

### 1. 活動を点検・評価する人は

活動を点検・評価するのは、基本的にまちづくりプランを策定した策定委員会のメンバーになります。

また、策定委員会メンバーの他に活動に参加している人たち、あるいは当事者等の意見を聴いたり、住民アンケートを行うなど、客観的な声を聞くことも大切です。

### 2. 活動の点検・評価の時期は

必ず毎年度末には実施状況を点検・評価し、次の活動に反映させます。また、評価結果は、広報紙等で地域住民に知らせましょう。

また、点検・評価は年度中間点や活動実施後にできれば、なお良いでしょう。

### 3. 評価の方法と評価の視点は

評価は、「活動評価表」により実施してみましょう。次の評価の視点に基づき評価をすすめ、そこで出された意見や問題点を記録します。

なお、最終年度には3年間の総合評価を行い、次のプラン策定につなげます。

※33～34頁の記入サンプルを参照

No.	評価項目	評価の視点
1	目標の達成度	活動の目標はどの程度達成されたか。
2	住民への広報・啓発	活動や福祉課題について、住民にどの程度まで広報・啓発ができたか。その結果、住民の理解、関心は高まったか。
3	住民参加	高齢者や障害者等の当事者を含めた住民の参加、協力がどの程度得られたか。
4	関係団体・機関との連携・協働	関係団体・機関との連携・協働がどの程度は図られたか。
5	総合評価	計画に無理なところはなかったか。今後の課題は何か。



光地区 まちづくりプラン活動評価表

総合目標	めさせ! 困りごと『0(ゼロ)』のご近所づくり						
年次	目標	なかまをふやしてご近所づくり					
実施する活動	評価項目	目標の達成度	住民への広報・啓発	住民参加	他機関との連携	総合評価・課題	
1年目 (平成26年度)	地区カルテやアンケートを活用し、地域で何が問題なのかを住民間で共有し話し合いの場を持つ	・地区懇談会の開催 ※「地区カルテで自分の地域を再発見」意識づけ	地区カルテを活用し、自分達の地区を客観的に見ることができた。住民間で共有し、話し合いの場を持つことができた。	地区懇談会の開催について呼びかけ、住民への趣旨の理解を図った。	地区的役員が中心となり、回覈板等により広報啓発を図るが、初めての試みで住民の参加は少なかった。	地域の人が集まる場が持てた。 地域に目を向けるきっかけづくりができた。	
	家庭や地域の中でのあいさつの推奨	制度設計の構築 ・あいさつ隊の結成 ・あいさつの方法の啓発活動内容の	あいさつ隊を結成し、あいさつの方法の啓発活動内容を決定した。	広報誌・地元ケーブルテレビで紹介した。	住民参加はこれから	計画通りに実施できた。	
	サロンに来れない人の見守り体制づくり	—	—	—	—	—	
	異世代・外国人などそれぞれの立場で、イベントや交流会・集いなどの開催（登下校見守りボランティア等）	—	—	—	—	—	
	対象別、テーマ別等の工夫したサロンづくり	・地域のサロンやその他の集まり、趣味活動グループの把握および関係者との交流	地域のサロンや活動グループと主たる活動者の把握はできたが、今後、必要とされる世代や外国人の状況は把握できなかった。	地区的座談会で、サロンやグループの活動者、新興住宅地や外国人の生活情報の把握を兼ねて、広報した。	住民座談会の参加者に地域の活動状況を聞くことができたが、外国人の生活状況の把握はできにくかった。キーパーソンを探す必要あり。	サロン間の交流を図った。	
評価（5段階）		5・④・3・2・1	5・4・③・2・1	5・4・③・2・1	5・4・③・2・1	5・④・3・2・1	
2年目 (平成27年度)	地区カルテやアンケートを活用し、地域で何が問題なのかを住民間で共有し話し合いの場を持つ	・住民を対象にしたアンケートの実施 ・アンケート結果を基にした地域の問題の発掘（地区懇談会）	住民を対象にアンケートを実施することができた。	アンケートを通して、住民に広報できた。	前年に地区懇談会をしていたこともあり、アンケート回収率はおおむね良好だった。	—	
	家庭や地域の中でのあいさつの推奨	あいさつ隊の活動	あいさつ隊の活動ができた。	広報誌・地元ケーブルテレビで紹介した。	あいさつ隊の活動を通して、住民もあいさつするようになった。	計画通りに実施できた。	
	サロンに来れない人の見守り体制づくり	制度設計の構築 (例) 地区役員、ボランティア等での週1での訪問	地区役員（区長、民生委員、福祉員）がボランティア等で訪問することが決定した。	—	—	計画通りに実施できた。	
	異世代・外国人などそれぞれの立場で、イベントや交流会・集いなどの開催（登下校見守りボランティア等）	・老人クラブとのグランドゴルフや伝承遊びなどのレクレーション ・異文化教室の開催（外国の料理・言語教室、外国人に日本の料理・文化教室） ・登下校見守りボランティアの立ち上げ、広報誌などによる広報	老人クラブと子ども達がグランドゴルフ大会を行った。 区でお花見会を開き、外国人も含めてみんなに声をかけて集まつてもらつた。若い子ども連れの人達もちらほら出てきた。	自治会の班ごとにチラシを作つて配った。 自治会に入っていない過程にも近くの人からポストに入れてもらつた。 チラシのことについて問合せが1、2件あった。	老人クラブと子ども達がグランドゴルフ大会は、天候が良かったこともあり、たくさんの人が来てくれた。 区のお花見には、若い夫婦が子どもを連れて参加している姿もあり、若いお母さん達の話をする場面が見られた。視力に障害をもつ方の姿もみえた。 外岡田の花見会では、お年寄りも協力をしていてはどうか。	グランドゴルフ大会は、あと数年このまま継続していきたい。 お花見会はさらに多くの方が参加されるよう工夫をしていく。 今回お花見会で顔を見せてくれた外国人の方と少し話をして、外国人の方のお国自慢の何かイベントができたら良い。	
	対象別、テーマ別等の工夫したサロンづくり	・既存のグループ同士の交流や異世代の交流 (例) サロンに保育所の園児を招く	交流の機会を持つ地区的イベントを開催し、外国人のグループへ参加を呼びかけた。	イベントの開催について、ポスター、区内回覧により広報した。	外国人のキーパーソンからの地域行事への参加の呼びかけと企画を依頼したが、参加者が少なかった。	国際協力等のグループの協力を得て、地域の中へ入りやすい環境をつくった。	
評価（5段階）		5・④・3・2・1	5・4・③・2・1	5・4・③・2・1	5・4・③・2・1	5・④・3・2・1	
3年目 (平成28年度)	地区カルテやアンケートを活用し、地域で何が問題なのかを住民間で共有し話し合いの場を持つ	・地区懇談会の継続 ・地域でお互いを気にかけあう関係づくり	地区懇談会を継続して開催した。	地区回覧により地区懇談会の内容を広報した。	行政（社会福祉課）と連携し、災害時要援護者の把握や見守り活動に取り組んだ。	—	
	家庭や地域の中でのあいさつの推奨	あいさつ隊の活動	あいさつ隊の活動ができた。	広報誌・地元ケーブルテレビで紹介した。	あいさつ隊の活動を通して、住民もあいさつするようになった。	計画通りに実施できた。	
	サロンに来れない人の見守り体制づくり	当番制での見守り活動	当番制での見守り活動ができた。	—	—	計画通りに実施できた。	
	異世代・外国人などそれぞれの立場で、イベントや交流会・集いなどの開催（登下校見守りボランティア等）	・地区的祭の企画 実行委員会の設立、予算などの検討 ・異国文化交流イベントの企画 実行委員の中心は外国の方（区の方も半分） ・登下校見守りボランティア活動とその振り返り	グランドゴルフ大会は、今年は事前に子ども達も練習して大会に臨んだ。 お花見会は昨年度より多くの方が参加された。 外国人の方と話を重ねて、今回〇〇フェスティバルを開催できた。 登下校見守りボランティアについて、区で話し合い、子ども達の下校時に庭木に水をあげるなど、家の前に出るようにしてもらった。	今まで道で会っても声をかけ合うことが少なかつたが、あいさつするが増えた。 チラシと若い人の間では、LINEを使うなどしながら、広報の仕方は広がつたようである。	見守り隊の人との連携で、歩いて出てくることのできないお年寄りや障害者が出てこられる姿が見られた。 〇〇フェスティバルにはたくさんの方が参加した。	まだ外国人の方が役員に入って来られるところまでいっていない。しかし、イベントを通して交流は確実に増えている。 外国人には、さらに集まつたりできる場所が必要な様子	
	対象別、テーマ別等の工夫したサロンづくり	・グループ化していない世代や地域の交流の場づくり ・新興住宅地での新たなイベントの開催と定着化	地域の新たなイベントを新興住宅地で開催した。前年度に参加した外婚人により少しずつ参加者が増えてきた。	地域の人と気軽に交流できる拠点を外国人の多い地域、新興住宅地の中に作り、広報啓発を行った。	昨年から参加してくれている外国人からの呼びかけで参加者が増えた。新興住宅地で開催したことで、新たな参加者も増えた。	外国人の子ども達との子ども会の交流を図ることができ、今後も親世代も含め、交流を図れるようになった。	
評価（5段階）		5・④・3・2・1	5・④・3・2・1	5・④・3・2・1	5・④・3・2・1	5・④・3・2・1	
3年間の総合評価	地区カルテやアンケートを活用し、地域で何が問題なのかを住民間で共有し話し合いの場を持つ	—	—	—	—	—	
	家庭や地域の中でのあいさつの推奨	—	あいさつ隊の結成や活動内容は順調にできた。	広報誌・地元ケーブルテレビを通じて広報できた。	あいさつ隊の効果により、住民にあいさつのつながりができる。	計画通りに実施できた。	
	サロンに来れない人の見守り体制づくり	—	地区役員などの訪問もできた。	—	—	計画通りに実施できた。	
	異世代・外国人などそれぞれの立場で、イベントや交流会・集いなどの開催（登下校見守りボランティア等）	—	少しずつではあるが交流できる機会は増えってきた。	チラシでの広報が主であるが、母国語での作成をしたり、大きな文字で表すなどその人にとてわかりやすい広報に気をつけていく。	多世代、異文化間で、あいさつができる人が増えた。 知っている人が増えてくると下校時に玄関先で花に水をやるなどして、子ども達の帰りを迎えてくれる人も増えた。	一つの機関・団体に負担のかからないような連携をとっていくように努力したい。	
	対象別、テーマ別等の工夫したサロンづくり	—	地域のサロンや活動グループから新たに外国人等の参加も少しずつ増えてきた。 継続的にイベントを開催し、つながりを創っていくことに力を入れる。	拠点を中心に広報活動から日頃の交流を図れるようにしていく。	常日頃の交流が可能になったが、見守りが必要な人の把握が必要。	誰もが分かりやすい呼びかけ方法への工夫が必要。	
評価（5段階）		5・④・3・2・1	5・④・3・2・1	5・④・3・2・1	5・④・3・2・1	5・④・3・2・1	

\*記入例の作成にあたっては、AとBのグループ編成をし、グループで作業を分担したため、表現の仕方がそれぞれ異なっています。

光地区 まちづくりプラン活動評価表

総合目標	めざせ! 困りごと『0(ゼロ)』のご近所づくり						
年次	目標	助け合えるご近所づくり					
	実施する活動	評価項目	目標の達成度	住民への広報・啓発	住民参加	他機関との連携	総合評価・課題
1年目 (平成26年度)	・子どもや学生による除雪ボランティア	・学校・大学等への呼びかけ ・除雪してほしい人の需要の把握	・除雪・買い物支援・ちょボラの需要調査をしたが、アンケートの回収率が低かった。 ・小地域ネットワークについて、福祉関係者への呼びかけができた。	・区の回覧版で広報をした。 ボランティアの扱い手、除雪の需要見守りフレンズの目的・募集	・地区内の見守りフレンズ育み講座に参加したもらった。	・学校・大学と連携して除雪ボラの扱い手を呼びかけた。 ・社協に見守りフレンズを申し込んだ。	・今できることを全てやってみた。 ・需要調査時のアンケート回収率が低かった。
	・住民みんなで支え合える小地域助け合いネットワークづくり	・福祉関係者への呼びかけ ・活動内容の検討と決定					
	・買い物支援の検討	・買い物支援してほしい人の調査(場所や人数の把握)					
	・ちょボラの推奨	・ちょボラの需要の調査・把握					
	・地区内の見守りフレンズ育み講座の開催	・講座の開催					
	評価(5段階)	⑤ 4・3・2・1	⑤ 4・3・2・1	⑤ 4・3・2・1	⑤ 4・3・2・1	⑤ 4・3・2・1	5・④・3・2・1
2年目 (平成27年度)	・子どもや学生による除雪ボランティア	・ボランティア講座の開催	・除雪ボランティア講座に大学生等が参加してくれた。 ・買い物ボランティア養成講座を行ったが、受講希望者が少なかったため、とりやめた。 ・ちょボラの需要調査をしたが、あまりやってほしいことが挙がらなかつた。	・買い物ボランティアについて、班長、民生委員などに協力を得て、聞き取りをした。	・社協に依頼して、フレンズ育み講座受講者に除雪・買い物ボランティア講座の案内を出した。講座の講師に地元の方を呼んだ。 ・小地域助け合いネットワークの内容を検討し、3か月に1回定例会をすることになった。 ・除雪ボランティア講座の講師を地元の方にお願いした。	・除雪・買い物ボランティアについて、社協と連携した。 ・地元の業者・小売店と交渉をしたが、いい返事をもらえなかった。	・小地域助け合いネットワークは、定期例会をするまでになった。 ・買い物難民をどうするか。 ・ちょボラの需要はなぜ挙がってこない?
	・住民みんなで支え合える小地域助け合いネットワークづくり	・回覧板や呼びかけによる住民への周知					
	・買い物支援の検討	・業者・小売店などとの交渉 ・買い物ボランティアの養成					
	・ちょボラの推奨	・需要に合わせたちょボラ養成講座の開催					
	・地区内の見守りフレンズ育み講座の開催	・人材発掘					
	評価(5段階)	5・4・③・2・1	⑤ 4・3・2・1	⑤ 4・3・2・1	⑤ 4・3・2・1	⑤ 4・3・2・1	5・④・3・2・1
3年目 (平成28年度)	・子どもや学生による除雪ボランティア	・マッチングによる活動	・除雪ボランティアのマッチングをして活動 ・小地域ネットワークの定例会を開催 ・ちょボラの需要調査のアンケート項目を再検討し、ちょボラの例示などを追加した。	・除雪ボランティアについて、回覧板による広報だけでなく、チラシも作成し広報した。	・小地域助け合いネットワークの定例会を開催した。 ・区の総会で1~3年目の活動報告をし、問題や課題を話し合った。	・買い物支援を隣町のスーパーにお願いしたところ、お試しで請け負ってくれた。	・除雪ボランティアは大雪だったため人材不足だった。 ・買い物支援を、隣町のスーパーが引き続き請け負ってくれるか心配。
	・住民みんなで支え合える小地域助け合いネットワークづくり	・定例会の実施→情報交換 ・活動の役割決め					
	・買い物支援の検討	・マッチングによる活動					
	・ちょボラの推奨	・マッチングによる活動					
	・地区内の見守りフレンズ育み講座の開催	・小地域助け合いネットワークづくりの参加・協力					
	評価(5段階)	5・④・3・2・1	⑤ 4・3・2・1	⑤ 4・3・2・1	⑤ 4・3・2・1	⑤ 4・3・2・1	5・④・3・2・1
3年間の総合評価	・子どもや学生による除雪ボランティア		ちょボラの需要把握ができていない。	順調に周知している。	若い世代の参加が少ない。	引き続き関係機関と連携していく。	・ちょボラの需要把握ができるいない。 ・若い世代の住民参加の促進。
	・住民みんなで支え合える小地域助け合いネットワークづくり						
	・買い物支援の検討						
	・ちょボラの推奨						
	・地区内の見守りフレンズ育み講座の開催						
	評価(5段階)	5・④・3・2・1	⑤ 4・3・2・1	⑤ 4・3・2・1	⑤ 4・3・2・1	⑤ 4・3・2・1	5・④・3・2・1

※記入例の作成にあたっては、AとBのグループ編成をし、グループで作業を分担したため、表現の仕方がそれぞれ異なっています。

# 様式集

## ○○地区 基礎データ表

(平成 年 月 日現在)

項目		地区内数	全市・町数	入手先
人口総数		人	人	
	15歳未満 (年少人口)	人 %	人 %	
	15~64歳 (生産年齢人口)	人 %	人 %	
	65歳以上 (高齢者人口) 〔高齢化率〕	人 %	人 %	
	平均年齢	歳	歳	
世帯数		世帯	世帯	
	65歳以上独居世帯	世帯 %	世帯 %	
	高齢夫婦世帯	世帯 %	世帯 %	
自治会数		自治会	自治会	
児童数		人	人	
老人会会員数		人	人	
民生委員児童委員数		人	人	
主任児童委員数		人	人	
福祉委員数		人	人	
ボランティア活動者数	個人	人	人	
	団体	団体	団体	
生活保護受給世帯数		世帯	世帯	
要介護認定者数		人	人	
障害者手帳所持者数		人	人	
	身障手帳	人	人	
	療育手帳	人	人	
	精神保健福祉手帳	人	人	
一人親家庭数		世帯	世帯	
	母子家庭数	世帯	世帯	
	父子家庭数	世帯	世帯	
【地域の特徴・福祉課題】				

※本表は、「地区データ表」の他、「地区アセスメントシート」など、呼び名がいろいろあります。

「地域支え合い体制づくり人材育成事業」

ご近所に気づく、ご近所を築く

あなたの

きんじょりょく

「ご近助力」～ご近所での助け合いの力～

チェックしてみませんか？



あなたがお住まいの地区名は、

※このチェックシートは、「私たちの暮らしの居心地の良さや安心」につながっている住民一人ひとりの営みや人ととの関係性、場所等を10区分50項目にまとめたものです。

※このシートを使って、自己チェックすることで、ご近所とのつながり度や地域への愛着度、暮らしの安心感等を度数化して、分かりやすく振り返ることができ、その結果をみんなで話し合うことで「ご近所での助け合いの力～ご近助力～」を高めていくことを目的としています。

※なお、このチェックシートの中でいう「ご近所」とは、便宜上「集落や町内会など普段から徒歩で行ける範囲」と定義したいと思います。

※つきましては、個人のプライバシーには十分ご注意いただき、みんなで「ご近助力」チェックをしてみましょう！

このシートの内容に関するご意見・お問い合わせは、

社会福祉法人 福井県社会福祉協議会 福祉のまちづくり推進課 (TEL0776-24-4987) または、  
お住まいの市町社会福祉協議会 ( - - - ) まで

以下の①～⑤のそれぞれについて、右側の1～4のあてはまる番号に○をつけてください。

1. ご近所とのコミュニケーションについて	よくある	たまにある	あまりない	全くない
以下の①～⑤のそれぞれについて、右の1～4のいずれかに○をつけてください。				
① 近所の人と顔を合わせることがある	4	3	2	1
② 近所の人とあいさつを交わすことがある	4	3	2	1
③ 近所の人とおしゃべりや立ち話をすることがある	4	3	2	1
④ 近所の家同士で行き来するがある	4	3	2	1
⑤ 近所の人と電話やメールで連絡を取ることがある	4	3	2	1

あなたの「ご近所とのコミュニケーション」で気づいたことなどがあれば、書き留めておきましょう。

2. ご近所へのさりげない思いやりや親切について	あてはまる	あてはまる	どちらかといふと	どちらかといふと	あてはまらない	全くあてはまらない
以下の①～⑤のそれぞれについて、右の1～4のいずれかに○をつけてください。						
① 近所の人におすそわけをするほうだ	4	3	2	1		
② 近所の人が困っていれば手を貸すほうだ	4	3	2	1		
③ 近所の出来事や異変が気になるほうだ	4	3	2	1		
④ 近所の人が元気でいるかどうかが気になるほうだ	4	3	2	1		
⑤ 近所の人の様子（安否）をうかがいに行くほうだ	4	3	2	1		

あなたの「ご近所へのさりげない思いやりや親切」で気づいたことなどがあれば、書き留めておきましょう。

以下の①～⑤のそれぞれについて、右側の1～4のあてはまる番号に○をつけてください。

3. 地域の子どもへの関心について	以下①～⑤のそれぞれについて、右の1～4のいずれかに○をつけてください。	全くあてはまらない			
		あてはまる	どちらかといふ	どちらかといふ	あてはまらない
① 近所の子どもの顔は分かる（どこの家の子か分かる）ほうだ	_____	4	3	2	1
② 子どもの見守りや健全育成に关心があるほうだ	_____	4	3	2	1
③ 子ども会やPTA活動には協力する（自分の子どもの有無に関わらず）ほうだ	_____	4	3	2	1
④ 学校が行う行事や小中学生の課外授業等には協力するほうだ	_____	4	3	2	1
⑤ いじめや非行、児童虐待等の問題に关心があるほうだ	_____	4	3	2	1

あなたの「地域の子どもへの関心」で気づいたことなどがあれば、書き留めておきましょう。

4. プライバシーや尊厳に対する理解について	以下の①～⑤のそれぞれについて、右の1～4のいずれかに○をつけてください。	全くあてはまらない			
		あてはまる	どちらかといふ	どちらかといふ	あてはまらない
① 近所のプライバシーに触れる情報は他言しないように配慮しているほうだ	_____	4	3	2	1
② 障がいや認知症に対する理解はあるほうだ	_____	4	3	2	1
③ 政治や宗教の自由を認めているほうだ	_____	4	3	2	1
④ 多様な考え方や生き方を尊重しているほうだ	_____	4	3	2	1
⑤ 地域の中で孤立している人がいると気になるほうだ	_____	4	3	2	1

あなたの「プライバシーや尊厳に対する理解」で気づいたことなどがあれば、書き留めておきましょう。

以下の①～⑤のそれぞれについて、右側の1～4のあてはまる番号に○をつけてください。

5. みんなと一緒に楽しめる活動や場所について	よくある	たまにある	あまりない	全くない	
				4	3
① 公民館や集会場を利用・活用することがある				4	3
② 近所の多世代の人とふれあったり、交流することがある				4	3
③ 地区の運動会や祭り等の地域行事に参加することがある				4	3
④ 近所の人と普段から集まったり、出かけたりすることがある				4	3
⑤ 青年団や婦人会、老人クラブ等の地域活動との関わりがある				4	3

「みんなと一緒に楽しめる活動や場所」で気づいたなどがあれば、書き留めておきましょう。

6. 学びと生きがい活動について	あてはまる	どちらかというとあてはまる	どちらかといふとあてはまらない	全くあてはまらない	
				4	3
① 趣味や生きがいなどの講座に興味があるほうだ				4	3
② 余暇活動（スポーツや趣味）を一緒に使う仲間がいるほうだ				4	3
③ 農作業や園芸、日曜大工等にやりがいを感じるほうだ				4	3
④ 自分の趣味や特技を近所で活かしてみたいと思うほうだ				4	3
⑤ ボランティア活動や市民活動等に興味があるほうだ				4	3

あなたの「学びと生きがい活動」で気づいたことなどがあれば、書き留めておきましょう。

以下の①～⑤のそれぞれについて、右側の1～4のあてはまる番号に○をつけてください。

7. 地域の歴史や文化等への関心について	以下の①～⑤のそれぞれについて、右の1～4のいずれかに○をつけてください。	あてはまる	どちらかというとあてはまる	どちらかといふ	あてはまらない	全くあてはまらない
		4	3	2	1	
① 身近な自然に親しみを感じるほうだ						
② 地元の郷土料理や特産物を知っているほうだ						
③ 身近な地域の名所旧跡を知っているほうだ						
④ 身近な地域の成り立ちや伝統を知っているほうだ						
⑤ 身近な地域の良さや特色を積極的にアピールするほうだ						

あなたの「地域の歴史や文化等への関心」で気づいたことなどがあれば、書き留めておきましょう。

8. 地域のルールについて	以下①～⑤のそれぞれについて、右の1～4のいずれかに○をつけてください。	あてはまる	どちらかといふ	どちらかといふ	あてはまらない	全くあてはまらない
		4	3	2	1	
① 集落や町内の回覧物や配付物には目を通すほうだ						
② ゴミ捨て等のルールはしっかり守るほうだ						
③ 社会奉仕活動には積極的に参加するほうだ						
④ 集落や町内会の会合には参加するほうだ						
⑤ 頼まれたら集落や町内会での世話役（役回り）を担うほうだ						

あなたの「地域のルール」で気づいたことなどがあれば、書き留めておきましょう。

以下の①～⑤のそれぞれについて、右側の1～4のあてはまる番号に○をつけてください。

9. 防犯や防災の意欲について	全くあてはまらない どちらかといふと あてはまる あてはまる
以下の①～⑤のそれぞれについて、右の1～4のいずれかに○をつけてください。	
① 防犯や防災に関する緊急情報（テレビやラジオ、携帯電話等）はチェックするほうだ	4 3 2 1
② 消防団や自主防災組織等の活動に協力しているほうだ	4 3 2 1
③ 避難所の場所や消火栓・防火水槽の場所を把握しているほうだ	4 3 2 1
④ 集落や町内会の防災訓練に参加しているほうだ	4 3 2 1
⑤ 防災・防犯マップなどの情報を把握しているほうだ	4 3 2 1

あなたの「防犯や防災の意欲」で気づいたことなどがあれば、書き留めておきましょう。

10. 困りごと（不安）の相談と助け合いについて	全くあてはまらない どちらかといふと あてはまる あてはまる
以下の①～⑤のそれぞれについて、右の1～4のいずれかに○をつけてください。	
① 近所の人に自分の愚痴や不安を話すほうだ	4 3 2 1
② 近所の人にちょっとした手助けを頼めるほうだ	4 3 2 1
③ 近所の人から困りごとを相談されるほうだ	4 3 2 1
④ 民生委員や福祉委員（※）の役割を理解しているほうだ	4 3 2 1
⑤ 各種の相談窓口を積極的に利用するほうだ	4 3 2 1

※社会福祉協議会等の委嘱を受けた住民で、ご近所での気になる世帯への見守りやニーズの発見等を担う。市町によって、設置の有無や名称（「福祉推進員」、「福祉協力員」等）が異なる。

あなたの「困りごと（不安）の相談と助け合い」で気づいたことなどがあれば、書き留めておきましょう。

## あなたの『ご近助力』自己分析は？

手順1		手順3		合計した数が 0～25…低い 26～50…やや低い 51～75…やや高い 76～100…高い	
各項目の①～⑩で〇をした数字を合計します。 0～5…活動や関心が低い 6～10…活動や関心がやや低い 11～15…活動や関心がやや高い 16～20…活動や関心が高い		さらに以下のⅠ～Ⅲについて、指定する5項目の合計を出します。 Ⅰ「ご近所とのつながり度」 Ⅱ「身近な地域への愛着度」 Ⅲ「暮らしの安全・安心度」			
1. ご近所とのコミュニケーションについて					
2. ご近所へのさりげない思いやりや親切について					
3. 地域の子どもへの関心について					
4. プライバシーや尊厳に対する理解について					
5. みんなが楽しめる活動や場所について					
6. 学びと生きがい活動について					
7. 地域の歴史や文化等への関心について					
8. 地域のルールについて					
9. 防犯や防災の意欲について					
10. 困りごと（不安）の相談と助け合いについて					
手順2		合 計			
『ご近助力』レーダーチャートを作つてみよう。↓					

右の図鑑にも各項目の如きポイント  
上をそのまま記しておけばよ。

## 手順2

『ご近助力』レーダーチャートを作って、みんなで共有してみましょう！

### 『ご近助力』レーダーチャート

1 ご近所とのコミュニケーションについて

10 困りごと(不安)の相談と助け合いについて

2 ご近所へのさりげない思いやりや親切について

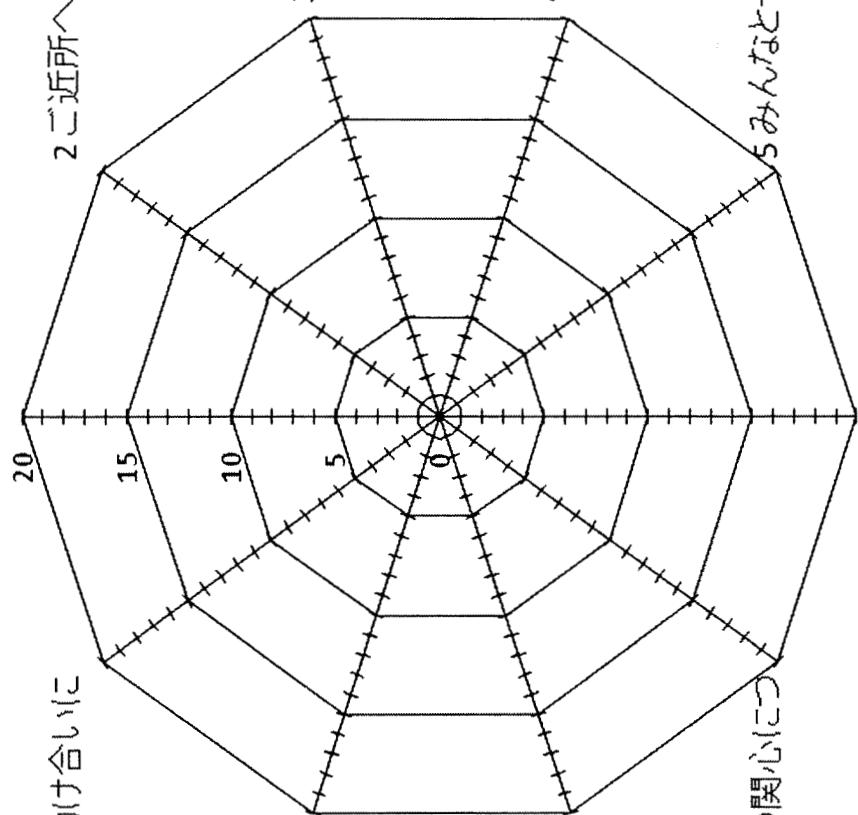
9 防犯や防災の意欲について

3 地域の子どもへの関心について

4 プライバシーや尊厳に対する理解について  
8 地域のルールについて

7 地域の歴史や文化等への関心について  
5 みんなと一緒に楽しめる活動や場所について

6 学び生きがい活動について



課題整理表

課題	具体的な意見	解決策	優先順位	選択の視点（3点満点で点数化）						目標
				取組易さ	重要性	効果性	緊急性	効率性	計	
取組の可否										
取組の可否										
取組の可否										
取組の可否										
取組の可否										

取組の可否									
取組の可否									
取組の可否									
取組の可否									
取組の可否									

〇〇地区 まちづくりプラン

総合目標	
------	--

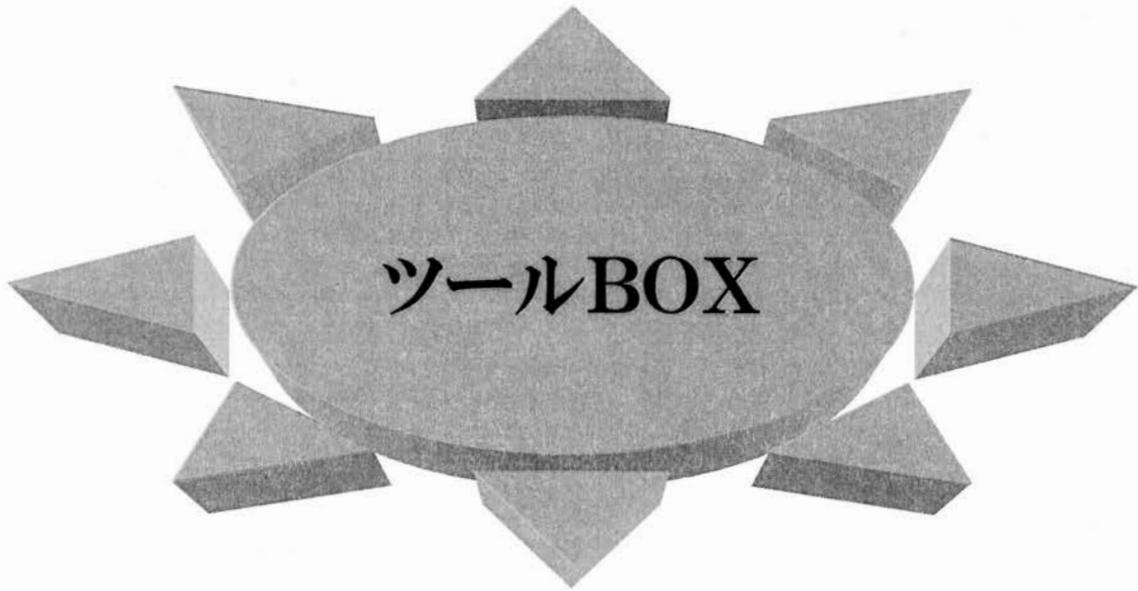
目標			
実施する活動	1年目 (平成 年度)	2年目 (平成 年度)	3年目 (平成 年度)



〇〇地区 まちづくりプラン活動評価表

総合目標						
目標						
年次	評価項目 実施する活動	目標の達成度	住民への広報・啓発	住民参加	他機関との連携	総合評価・課題
1年目 (平成 年度)						
	評価					
2年目 (平成 年度)						
	評価					
3年目 (平成 年度)						
	評価					
3年間の総合評価						
	評価					





〔住民座談会や会議等で役立つツール〕

【ブレーン・ストーミング】

決められた課題に対して自由にアイデアを出し合い、優れた発想を生み出す方法です。

【KJ法(課題整理法)】

最も基本的な課題整理法です。出された課題を小グループ化、大グループ化していく、グループの意見をまとめる場合に適しています。

【旗揚げアンケート】

限られた時間の中で、参加者の自由な意見を広くみとることができます。

【KJ法とブレーン・ストーミングを使ったワークショップのテーマサンプル】

住民座談会等を円滑にすすめるために、よく使われるワークショップのテーマです。

〔広報紙をつくるための基礎知識〕

【広報紙のつくり方】

広報紙をつくるにあたっての基礎知識を載せています。

## ブレーン・ストーミング

※ブレーン=頭脳に、ストーム=嵐を吹かせる意味

目的	決められた課題に対して自由にアイデアを出し合い、優れた発想を生み出す方法です。固定観念を排除して思考を柔軟にすることにより、想像力を刺激したり、発想の楽しさを体験するねらいもあります。
活用	地域が抱える課題や問題点の解決策を考えるときなどに活用すれば、様々な意見やアイデアを出し合うことができます。
ルール	<p>ブレーン・ストーミングにおいては、次の4つのルールを厳格に守らなければなりません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 他人の意見を批判しない。</li> <li>② どんな意見でもかまわない。</li> <li>③ たくさんの意見を出す。</li> <li>④ 他人の意見に便乗も大歓迎。</li> </ul>
方法	<p>①6人程度のグループをつくり、進行役と記録係を決めます。      ②進行役は、4つのルールを説明します。      ③進行役は、課題を提示します。      ④記録係は討議内容を模造紙に記録していきます。      ⑤討議終了後、進行役は意見を整理し、まとめをします。</p> <p>※まとめ方は、似た意見を集めてグループ化し、タイトルをつけ、優先順位を考えます。</p>
用意するもの	模造紙、マーカー、「4つのルール」を書いた紙

## KJ法(課題整理法)

※KJは考案者の川喜田 二郎氏のKとJを用いたもの

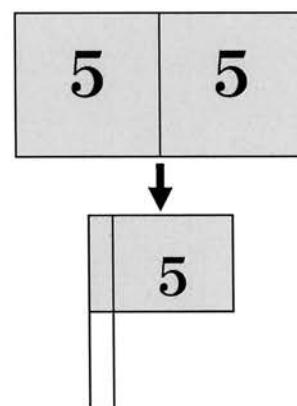
目的	最も基本的な課題整理法です。出された課題を小グループ化、大グループ化していき、グループの意見をまとめる場合に適しています。
活用	様々な意見や課題が出された場合に、一つひとつの意見や課題をグループ化し、整理していくことができます。
方法	<p>①6人程度のグループをつくり、進行役を決めます。</p> <p>②進行役は、参加者に名刺サイズ程度のポストイットを配ります。</p> <p>③進行役が示したテーマについて、参加者は各自の考えをポストイットに記入していきます。 (目安時間5分)</p> <p>④各自が順番に自分の考えを発表しながら、テーブルに広げた模造紙に記入したポストイットを並べていきます。このとき同じ内容と思うものをグループ化してかためていきます。 (目安時間 20 分)</p> <p>⑤全員のカードが並び終わった時点で、進行役はポストイットを似た意見同士で分類、整理をし、グループの意見をまとめています。 (目安時間 20 分)</p> <p>※小グループと大グループのグループに大別し、それぞれのテーマにタイトルをつけ、模造紙に貼り付けていきます。</p> <p>⑥まとめたグループの意見を、各グループの代表者が発表します。 (目安時間 15 分)</p>
用意するもの	ポストイット、模造紙、サインペン、マーカー、模造紙を張るためのホワイトボード

## 旗揚げアンケート

目的	限られた時間の中で、参加者の自由な意見を広くみとることができます。全員が一齊に旗を揚げる所以、参加者が周りの様子を見て自分の意見を変えたりすることもなく、全員の意見がその場で分かります。また、少数意見についても、その思いを聞き取ることもできます。
活用	自己点検の採点等に、この方法により、みんなが感じている評価を出し合うのに効果的です。
方法	①進行役を決めます。 ②色画用紙5色と割り箸、マーカーを用意します。 ③1~5番の数字を書いた旗を作ります。 ④進行役は、それぞれの項目について質問し、参加者から旗揚げで回答してもらいます。 ⑤進行役は、それぞれの回答数を用紙に記入します。 ⑥少数意見について、その思いを言ってもらいます。
用意するもの	色画用紙5色、割り箸、はさみ、マーカー、ホッチキス

### 【旗の作り方】

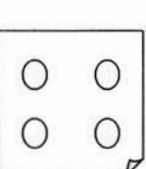
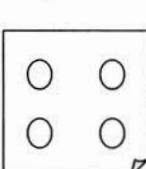
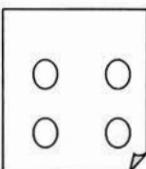
- ①5色の色画用紙を、それぞれ10cm×20cmに切る。
- ②切った画用紙を二つに折り1~5番の数字を書く。
- ③割り箸にホッチキスでとめる。



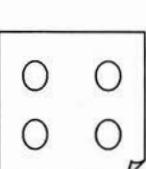
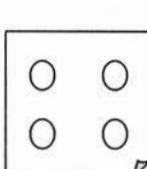
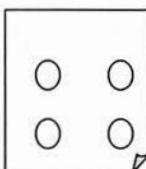
## KJ法とブレーン・ストーミングを使ったワークショップのテーマサンプル

**進め方** 下記の1. ~ 4. のテーマを順番にKJ法により内容をグループ化していきます。ポストイットに書いた内容は、ブレーン・ストーミングのルールで一人ひとりが紹介をしながら話しを盛り上げていきます。

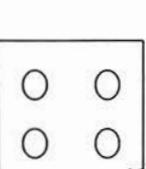
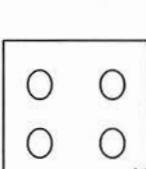
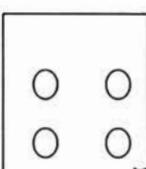
### 1. 私たちのまちのいいところ



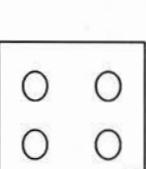
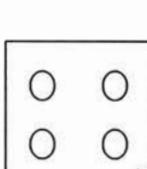
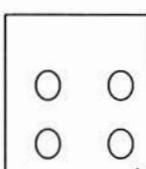
### 2. まちの中で気になっているところ



### 3. どんなまちにしていきたいか



### 4. 私たちにできること



### 【テーマ解説】

#### 1. 私たちのまちのいいところ

地域の秘められた力や可能性を確認する。まちのいいところを「さらに良くしていく」のが地域福祉です。

#### 2. まちの中で気になっているところ

少し目線を変えたら地域の中で困っていることもある。近隣で気になっていることもある。「日常の生活課題を解決していくこと」が地域福祉です。

#### 3. どんなまちにしていきたいか

私のまちがどんなまちだったらいいか、希望や願いを語り合う。まちの将来に向けて「夢やロマンを語り合う」のが地域福祉です。

#### 4. 私たちにできること

将来に向けて私たちには何ができるのか、できるだけ具体的に実現できることを提案する。私たちのまちの「道しるべをつくる」のが地域福祉です。

## 広報紙のつくり方

### 記事の書き方いろは

#### ① 記事の種類を明確に

記事には大きく分けて4種類あります。

- ① 報道記事…行事・会議等の報告、施設訪問、インタビュー
- ② 論評記事…あいさつ、主張、意見、コラム
- ③ 解説記事…組織や制度の解説、用語説明
- ④ コミュニケーション…俳句、短歌、詩、趣味、クイズ

#### ② 全体の構成を考える

書きたい内容を箇条書きにして並べてみましょう。

#### ③ 写真、イラスト、図表

文章以外で伝えるものを先に選びましょう。

#### ④ タイトル、見出し

結論から先に書くと見出しに使えます。

#### ⑤ リード文

長い文章の場合は、本文の前に導入文(リード文)を。



## ⑥ 大事な要素6W2H

伝えたい文章は次の8つの要素からできています。

- ① WHO…だれが
- ② WHOM…だれに
- ③ WHEN…いつ
- ④ WHERE…どこで
- ⑤ WHAT…何を
- ⑥ WHY…なぜ
- ⑦ HOW…どのように
- ⑧ HOW MUCH…いくらで

## ⑦ 7つの心得

構わずたくさん書いてなれることが秘訣です。

- ① ヤマを…一番大切なこと、伝えたいこと
- ② 簡潔に…短く、的を絞って、簡略に
- ③ 正確に…あやふやなことは必ず確かめて
- ④ 分かりやすく…むずかしい表現を避け、日常言葉で
- ⑤ いきいきと…情景描写や表情等、雰囲気を
- ⑥ やわらかく…「ですます体」で
- ⑦ 区切りを…句読点をきっちりと

## 紙面づくりのいろは

### ① 見出し

忙しくて、見出ししか見ない人もいます。まずは、正確に客観的に記事の要点を表現し、結論から書きます。見出しほは、タテ、ヨコとあります。1行から3行の見出しほは、それぞれ「主見出し」「脇見出し」「柱見出し」といい、バラエティを持たせ工夫してください。

## ② 写真

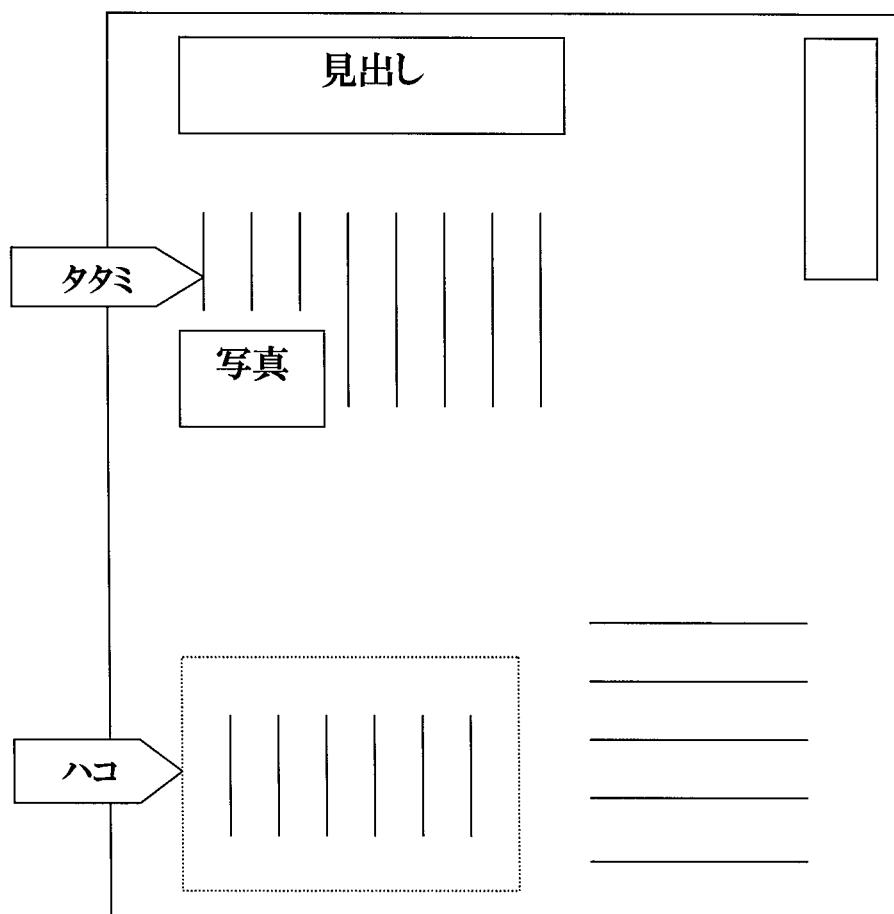
「1枚の写真は、百万語にもまさる」と言われます。良い写真は思い切って大きく使いましょう。写真には短い説明文章(キャプション)をつけましょう。

## ③ 書体

明朝体を基本にし、部分的にゴシック体等の字体でメリハリを持たせましょう。

## ④ レイアウト

お知らせやコラム等、見出しや写真、イラスト等をつけて、何段かにまとめたものを「タタミ」と言います。その周辺を罫線で囲んだものを「ハコ」と言います。こうすると記事が独立して目立ち、読みやすく、紙面全体のまとまりも良くなります。



## 『参考文献』

- ※ 「地域福祉活動ガイドブック 小地域福祉活動のススメ」  
(福井県社協発行:平成21年3月改訂版)
- ※ 「平成21年度社協による地域福祉推進研究会 小地域福祉活動分科会報告」  
(福井県社協発行:平成22年3月)
- ※ 「越前市社協地域福祉活動計画」  
(越前市社協発行:平成22年3月)
- ※ 「～みんなで考え みんなで学ぶ 地域ぐるみの福祉教育実践ヒント集」  
(名古屋市社協発行)
- ※ 「地域福祉活動リーダーのための小地域福祉活動の手引」  
(兵庫県社協発行:平成9年3月)
- ※ 「みんなでつくる ふれあい福祉プランの手引き」  
(神戸市社協発行:平成9年11月)

## 小地域福祉活動推進分科会 スーパーバイザー、メンバーからのコメント

(スーパーバイザーから)

「冷めた頭で地域に仕掛ける」

「熱い心 (Hot Heart) と冷めた頭(Cool Head)」の大切さを訴えた英国の経済学者、

A.マーシャル。今から 130 年前の金言です。「熱意を持ち、かたや冷静な地域分析と診断」に取り組むことが社協に求められています。

小地域の課題などを「ツール」を用いて住民と共有し、そして「マトリクス（型枠）」に落とし込みながら可視化～診断する、これをアウトプットしたのがこの「手引き」です。

臨床家としての社協ワーカーが、十分に活用されることを願っています。

金城大学社会福祉学部 教授 内 慶瑞

(メンバーから)

皆さんと練りに練った手引書ができてこと、たくさんの話し合いをしながら作ったこの過程が、「小地域まちづくりプラン策定」にはとても大事なのではないかと改めて振り返り、思いました。皆さん是非ご活用ください。

勝山市社会福祉協議会 長谷川美貴

2 年間かけて検討してきましたこの手引きが、社協ワーカーに「参考になる」と感じてもらえ、今後的小地域福祉活動において大いに役立つものであるよう願っております。分科会メンバーのみなさん 2 年間ありがとうございました。

鯖江市社会福祉協議会 宮田伸子

2 ヶ年にわたって本分科会に参加させて頂きありがとうございました。難しい内容で毎回理解するのに必死だった気がします。この手引きを実際にすこしずつでも地域での計画づくりに活用していけたらと思っております。

坂井市社会福祉協議会 藤野恵美子

**地域福祉の課題は多種多様**ですが、みんなで力をあわせより良い地域づくりを創造していきましょう。

永平寺町社会福祉協議会 面谷勝一

**手引きの作成にあたり、メンバーの皆様にはご迷惑をおかけしたか**と思いますが、私なりに頭を悩ませながら精一杯作成に携わらせていただきました。みんなの「まち」が少しでも理想に近づけば幸いです。

越前町社会福祉協議会 佐々木悠久

「**自分たちの住んでいるところをもっとよくしていきたい！**」という思いは誰もが持っていることで、みんなで「こうなったらしいなあ」って考えていくことはとても楽しいことですよね。職員としての働きかけ（きっかけ）が大事！住民の方々のチカラをどれだけ引き出せるか、みんなでがんばっていきましょう！

美浜町社会福祉協議会 松本みどり

“**小地域福祉活動計画**” ずっしりと重たいイメージの中でのスタートでした。2年を終えても、地域住民が自分の地域の魅力や課題に気づき、その中で、なお夢を持って生きていけるための「仕掛け」が重要だと感じています。地域の中で地域と繋がり 「たかが1歩、されど1歩」で進めていきたいと思います。

高浜町社会福祉協議会 村松清美

**住民さん自身が主役となって参加できるように、且つわかりやすく…**とメンバーが例文の一つ一つにまでこだわった本手引きが、それぞれの地域の「こんなまちにしたい…」の手がかり・足がかりになればと思います。

おおい町社会福祉協議会 渡辺一弘

平成25年度 「社協による地域福祉推進研究会」  
【小地域福祉活動推進分科会メンバー】

(敬称略)

No.	区分	所属	氏名	職名	備考
1	スーパー バイザー	金城大学社会福祉学部	内 慶瑞	教授	
2	市町社協	敦賀市 社会福祉協議会	奥野 由依	主事	
3		勝山市 社会福祉協議会	長谷川 美貴	地域福祉G 主任	
4		鯖江市 社会福祉協議会	宮田 伸子	地域福祉・総務係	
5		坂井市 社会福祉協議会	藤野 恵美子	地域福祉課 主事	
6		永平寺町 社会福祉協議会	面谷 勝一	地域福祉活動コーディネーター	
7		池田町 社会福祉協議会	山内 悟司		
8		越前町 社会福祉協議会	佐々木 悠人	主事	
9		美浜町 社会福祉協議会	松本 みどり	主事	座長
10		おおい町 社会福祉協議会	渡辺 一弘	地域福祉担当	
11		高浜町 社会福祉協議会	村松 清美	地域福祉課 主任	
12	県社協	福井県 社会福祉協議会	藤田 康彦	事務局次長	
13			岩田 さおり	福祉のまちづくり推進課総括主任	
14			井関 知恵美	福祉のまちづくり推進課主査	分科会担当



平成26年度

# ボランティア活動保険

全国200万人  
加入!!

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償!!

## 補償金額(保険金額)

保険金の種類	プラン	A プラン	B プラン
ケガの補償	死亡保険金	1,200万円	1,800万円
	後遺障害保険金	1,200万円 (限度額)	1,800万円 (限度額)
	入院保険金日額	6,500円	10,000円
	手術保険金	入院中の手術 65,000円	100,000円
	外来の手術	32,500円	50,000円
賠償責任保険	通院保険金日額	4,000円	6,000円
	賠償責任保険金 (対人・対物共通)	5億円 (限度額)	5億円 (限度額)

## 年間保険料

タイプ	プラン	A プラン	B プラン
基本タイプ		300円	450円
天災タイプ*		460円	690円

\*天災タイプでは、天災(地震・噴火・津波)に起因する被保険者の自身のケガを補償しますが、賠償責任の補償については、天災に起因する場合は対象になりません。

● 後遺障害も  
フルカバーなので  
安心です!!

## 保険金をお支払いする主な例

- 清掃ボランティア活動中、転んでケガをした。(ケガの補償)
- 活動に向かう途中、交通事故にあった。(ケガの補償)
- 活動中、食べた弁当でボランティア自身が食中毒になった。(ケガの補償)
- ・家事援助ボランティア活動で清掃中、誤って花びんを落としてこわした。(賠償責任の補償)
- ・自転車でボランティア活動に向かう途中、誤って他人にケガをさせた。(賠償責任の補償)

# ボランティア行事用保険

地域福祉活動や  
ボランティア活動の  
さまざまな行事における  
ケガ、賠償(主催者責任)  
を補償!!

## 補償金額(保険金額)

A プラン・B プランとも(A プランは熱中症補償付)

保険金の種類	補償内容	
ケガの補償	死亡保険金	500万円
	後遺障害保険金	500万円(限度額)
	入院保険金日額	3,500円
	手術保険金	入院中の手術 35,000円
		外来の手術 17,500円
賠償責任保険	通院保険金日額	2,200円
	対人事故	1事故 2億円(限度額)
賠償責任保険	対物事故	1事故 1,000万円(限度額)

## 保険料(1名あたり)

A プラン(宿泊を伴わない行事)、B プラン(宿泊を伴う行事)の2プランがあります。

A プラン (宿泊を伴わない行事)	
A1 行事	A2 行事
1日 28円 (最低保険料 560円) (最低加入人数 20名)	1日 126円 (最低保険料 2,520円) (最低加入人数 20名)
B プラン (宿泊を伴う行事)	
1泊2日(2日間)	224円
2泊3日(3日間)	275円
3泊4日(4日間)	280円
4泊5日(5日間)	331円
5泊6日(6日間)	336円
6泊7日(7日間)	341円

## 送迎サービス補償

- ◆ 送迎・移送サービス中の自動車事故などによるケガを補償!

## 福祉サービス総合補償

- ◆ ヘルパー・ケアマネジャーなどの活動中のケガや賠償責任を補償!

● お申込み、詳しい内容のお問合せは、あなたの地域の社会福祉協議会へ ●

団体契約者 **社会福祉法人  
全国社会福祉協議会**

(引受幹事保険会社) 日本興亜損害保険株式会社  
TEL:03(3593)6245

取扱代理店 **株式会社 福祉保険サービス**

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F  
TEL:03(3581)4667 FAX:03(3581)4763  
受付時間: 平日の 9:30~17:30 (12/29~1/3 を除きます。)  
この保険は、全国社会福祉協議会が保険会社と一括して契約を行う団体契約です。